

## 第2章 調査結果

平成 25 年度に三重県内で発生した産業廃棄物の発生及び処理状況の概要は、以下のとおりである。

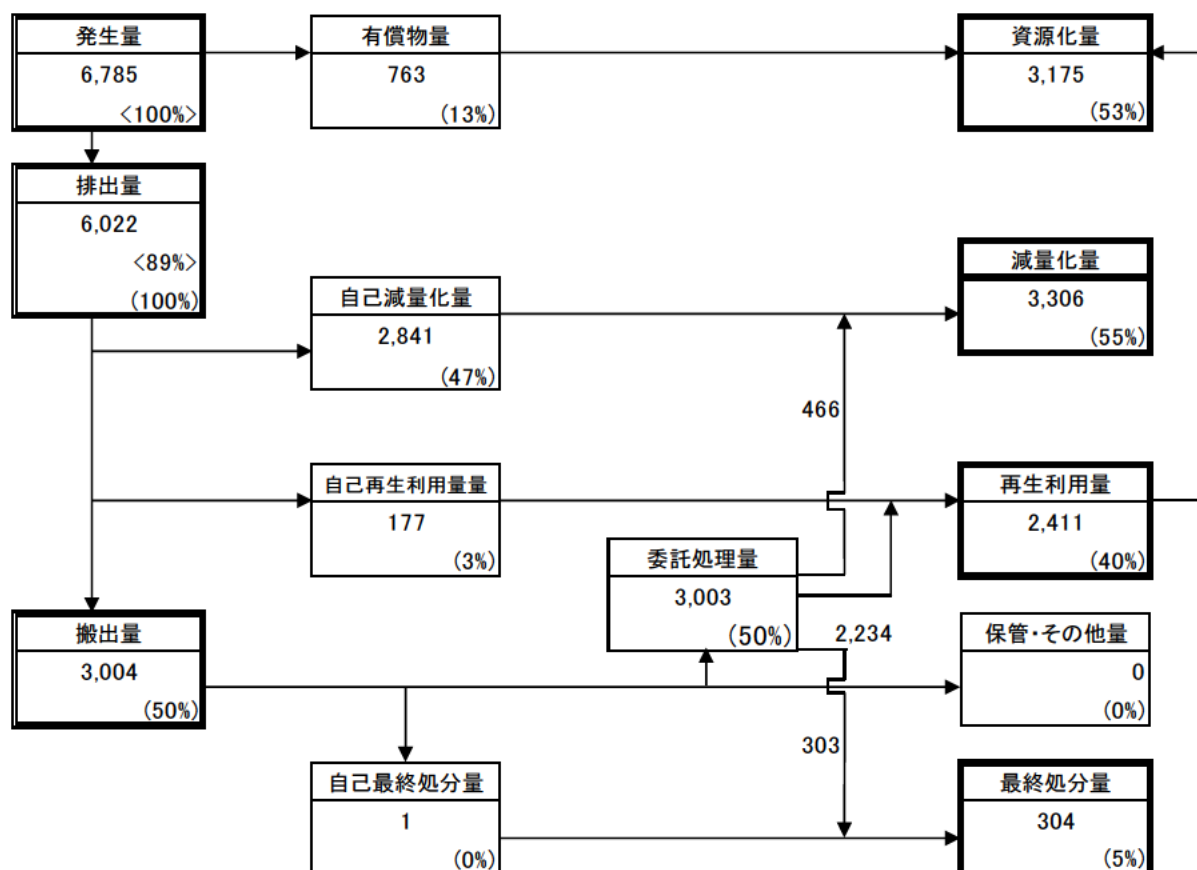
### 第1節 結果の概要

平成 25 年度に三重県内で発生した産業廃棄物の発生量は 6,785 千 t で、有償物量 (763 千 t) を除いた排出量は、6,022 千 t となっている。

排出量 6,022 千 t のうち、排出事業者自らの中間処理による減量分 (2,841 千 t) と自己再生利用量 (177 千 t) を除いた搬出量は 3,004 千 t (排出量の 50%) となっている。

搬出量 3,004 千 t は、自己最終処分 (1 千 t)、保管・その他 (0 千 t)、及び委託処理 (3,003 千 t) に分かれる。委託処理量 3,003 千 t のうち、中間処理による減量が 466 千 t、再生利用量が 2,411 千 t、最終処分量が 304 千 t となっている。

排出量に対して減量化量が 3,306 千 t (排出量の 55%)、再生利用量が 2,411 千 t (同 40%)、最終処分量が 304 千 t (同 5%) となっている。



注 1) < >内は発生量に対する割合。( )内は排出量に対する割合。

注 2) 上図の数値は千 t 未満を四捨五入しているため、総数と個々の合計は一致しない場合がある。

図 2-1-1 発生及び処理状況の概要

## 第2節 排出状況

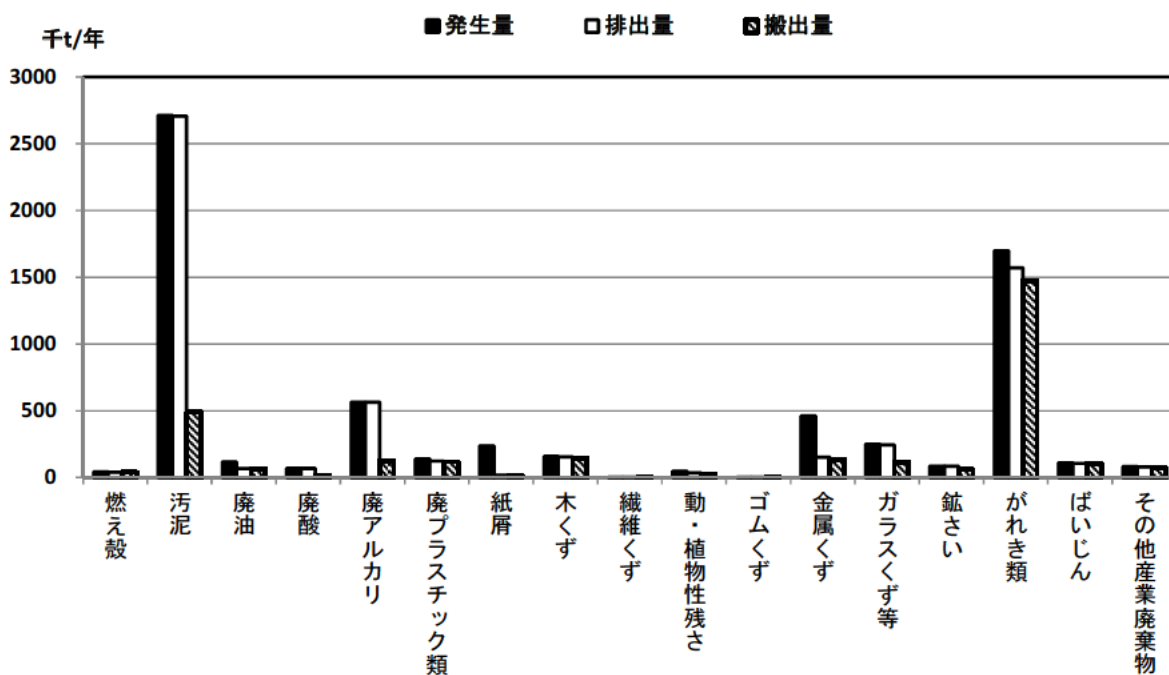
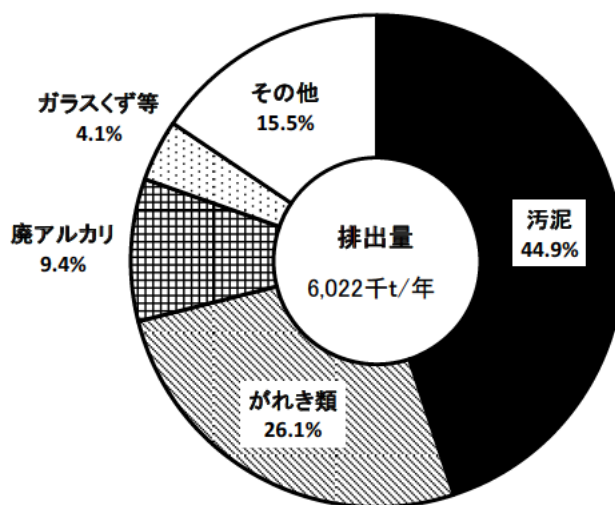
### 1 種類別の排出状況

平成25年度に三重県内で排出された産業廃棄物は6,022千tである。

排出量を種類別にみると、汚泥が2,707千t（44.9%）で最も多く、次いで、がれき類1,572千t（26.1%）となっている。

なお、汚泥は、排出される時点では多量であるが、乾燥、脱水、焼却等の処理により大幅に減量されるため、搬出される時点では、がれき類が最も多く1,475千tとなっている。

図 2-2-1 種類別の排出



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鉱さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
発生量	6785	42	2712	117	70	563	141	238	158	4	48	0	463	250	86	1699	112	82
	(100%)	(0.6%)	(40.0%)	(1.7%)	(1.0%)	(8.3%)	(2.1%)	(3.5%)	(2.3%)	(0.1%)	(0.7%)	(0.0%)	(6.8%)	(3.7%)	(1.3%)	(25.0%)	(1.6%)	(1.2%)
排出量	6022	41	2707	68	69	563	123	18	154	4	35	0	153	244	86	1572	107	79
	(100%)	(0.7%)	(44.9%)	(1.1%)	(1.1%)	(9.4%)	(2.0%)	(0.3%)	(2.6%)	(0.1%)	(0.6%)	(0.0%)	(2.5%)	(4.1%)	(1.4%)	(26.1%)	(1.8%)	(1.3%)
搬出量	3004	41	472	66	16	127	119	15	145	4	26	0	138	116	62	1475	107	74
	(100%)	(1.4%)	(15.7%)	(2.2%)	(0.5%)	(4.2%)	(4.0%)	(0.5%)	(4.8%)	(0.1%)	(0.9%)	(0.0%)	(4.6%)	(3.9%)	(2.1%)	(49.1%)	(3.6%)	(2.5%)

図 2-2-2 種類別の発生量、排出量、搬出量

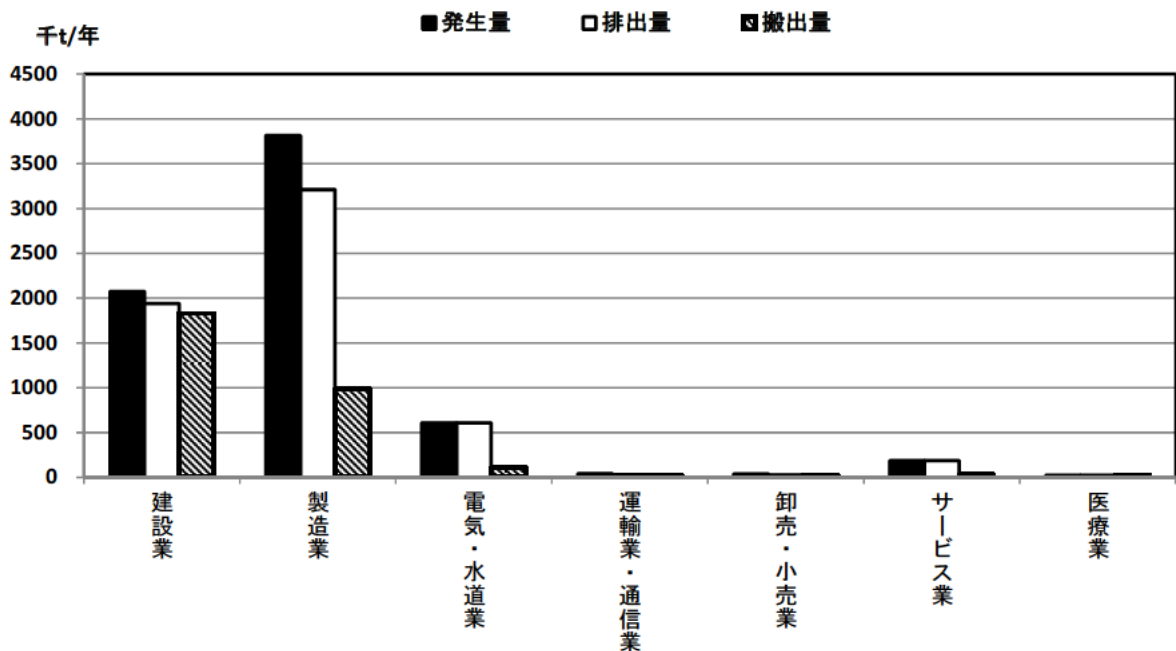
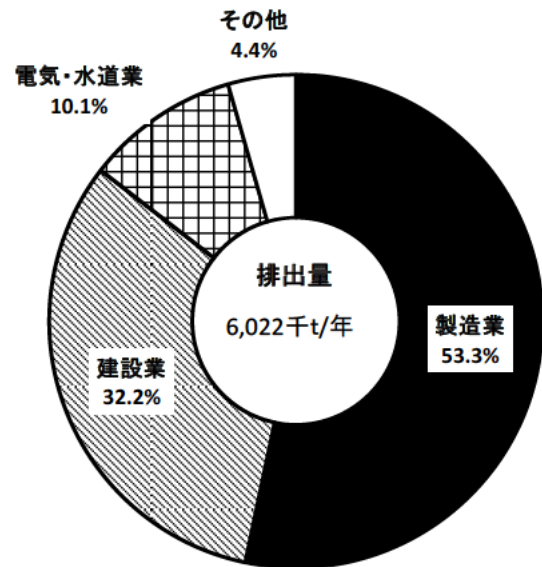
## 2 業種別の排出状況

排出量を業種別にみると、製造業が3,209千t(53.3%)で最も多く、次いで、建設業が1,938千t(32.2%)、電気・水道業が607千t(10.1%)を占めており、この3業種で全排出量の約96%になっている。

なお、製造業からの汚泥は、自己中間処理により大幅に減量されるため、その結果自己中間処理による削減量の小さい建設業が、搬出量が最も多い業種となる。

また、同様に電気・水道業(特に下水道業)は、排出される汚泥のほとんどが、脱水等により減量されるため、排出量では全体の10.1%を占めるが、搬出量でみると全体の3.7%にまで減っている。

図 2-2-3 業種別の排出量



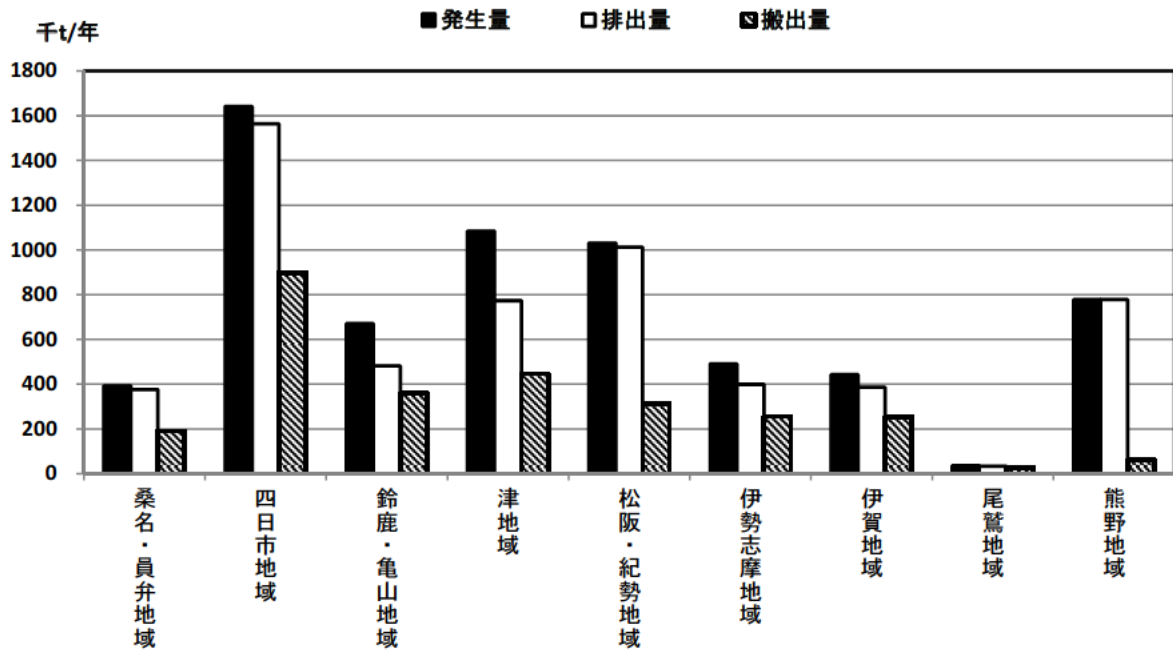
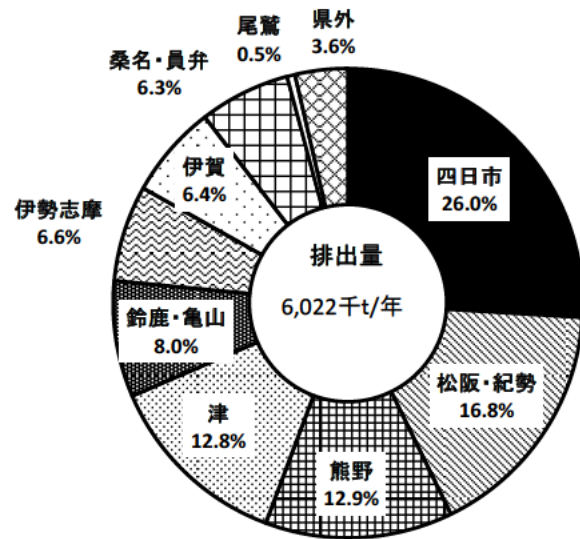
(千t/年)	計	建設業	製造業	電気・水道業	運輸業・通信業	卸売・小売業	サービス業	医療業
発生量	6,785	2,072	3,814	608	42	38	188	23
	(100.0%)	(30.5%)	(56.2%)	(9.0%)	(0.6%)	(0.6%)	(2.8%)	(0.3%)
排出量	6,022	1,938	3,209	607	30	26	188	23
	(100.0%)	(32.2%)	(53.3%)	(10.1%)	(0.5%)	(0.4%)	(3.1%)	(0.4%)
搬出量	3,004	1,830	964	111	19	25	33	22
	(100.0%)	(60.9%)	(32.1%)	(3.7%)	(0.6%)	(0.8%)	(1.1%)	(0.7%)

図 2-2-4 業種別の発生量、排出量、搬出量

### 3 地域別の排出状況

地域別の排出量は、四日市地域が1,564千t(26.0%)で最も多く、次いで、松阪・紀勢地域が1,012千t(16.8%)、熊野地域が778千t(12.9%)となっており、以下は、津地域、鈴鹿・亀山地域、伊勢志摩地域、伊賀地域、桑名・員弁地域、尾鷲地域の順となっている。

図 2-2-5 地域別の排出量



(千t/年)	計	桑名・員弁地域	四日市地域	鈴鹿・亀山地域	津地域	松阪・紀勢地域	伊勢志摩地域	伊賀地域	尾鷲地域	熊野地域	県外
発生量	6,785	392	1,641	670	1,085	1,032	491	442	36	778	218
	(96.8%)	(5.8%)	(24.2%)	(9.9%)	(16.0%)	(15.2%)	(7.2%)	(6.5%)	(0.5%)	(11.5%)	(3.2%)
排出量	6,022	376	1,564	481	774	1,012	399	387	33	778	218
	(96.4%)	(6.3%)	(26.0%)	(8.0%)	(12.8%)	(16.8%)	(6.6%)	(6.4%)	(0.5%)	(12.9%)	(3.6%)
搬出量	3,004	190	879	358	446	314	257	253	27	61	218
	(92.7%)	(6.3%)	(29.3%)	(11.9%)	(14.8%)	(10.5%)	(8.5%)	(8.4%)	(0.9%)	(2.0%)	(7.3%)

図 2-2-6 地域別の発生量、排出量、搬出量

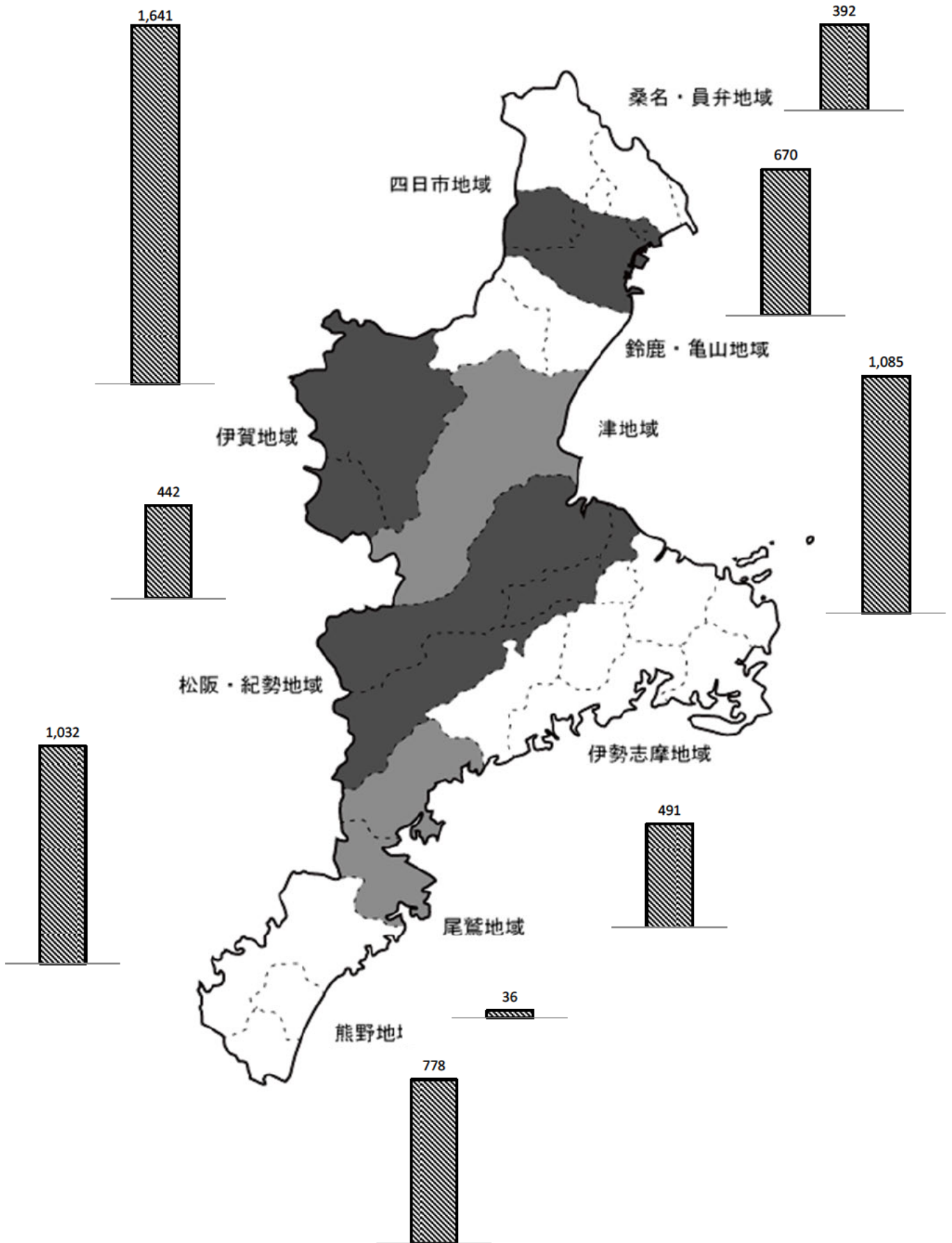
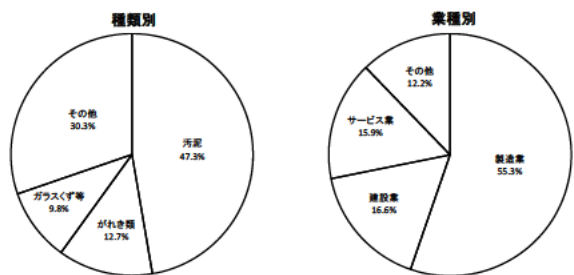
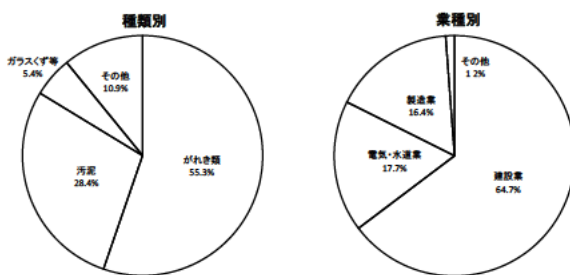


図 2-2-7 地域別の発生量

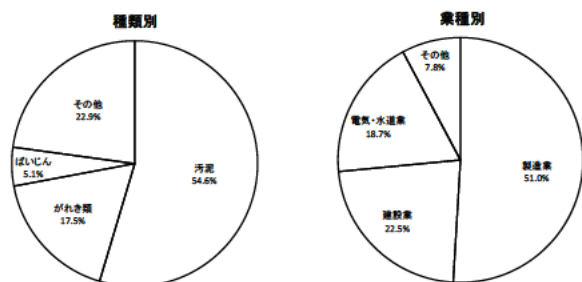
桑名・員弁地域  
(発生量：392千t)



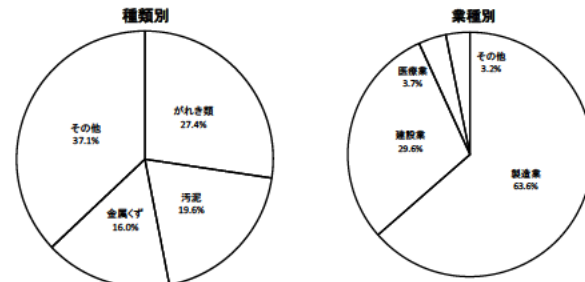
伊勢志摩地域  
(発生量：491千t)



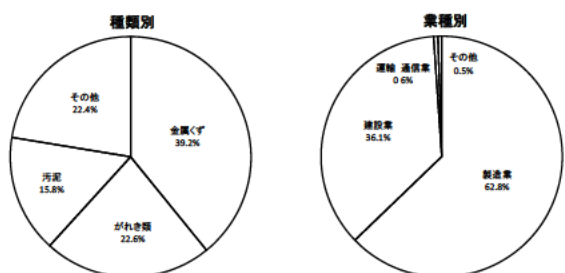
四日市地域  
(発生量：1,641千t)



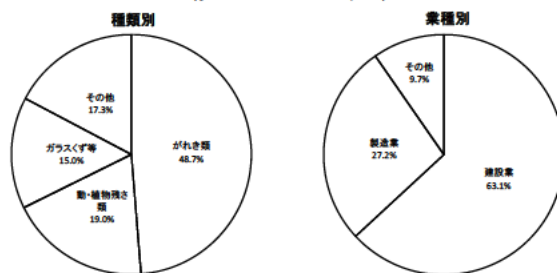
伊賀地域  
(発生量：442千t)



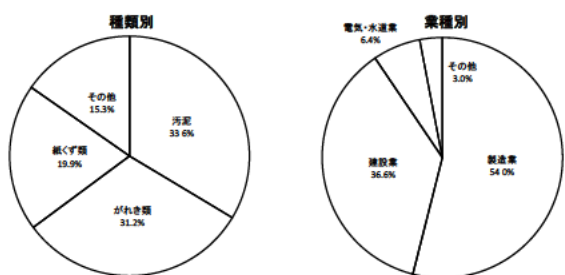
鈴鹿・亀山地域  
(発生量：670千t)



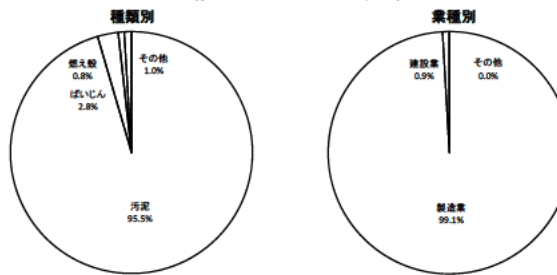
尾鷲地域  
(発生量：36千t)



津地域  
(発生量：1,085千t)



熊野地域  
(発生量：778千t)



松阪・紀勢地域  
(発生量：1,032千t)

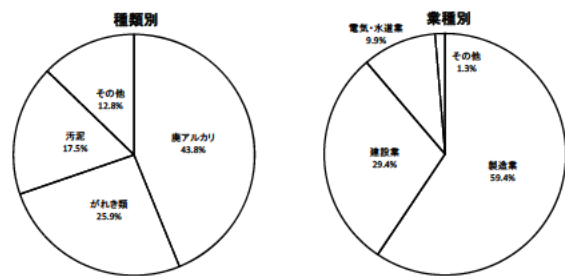
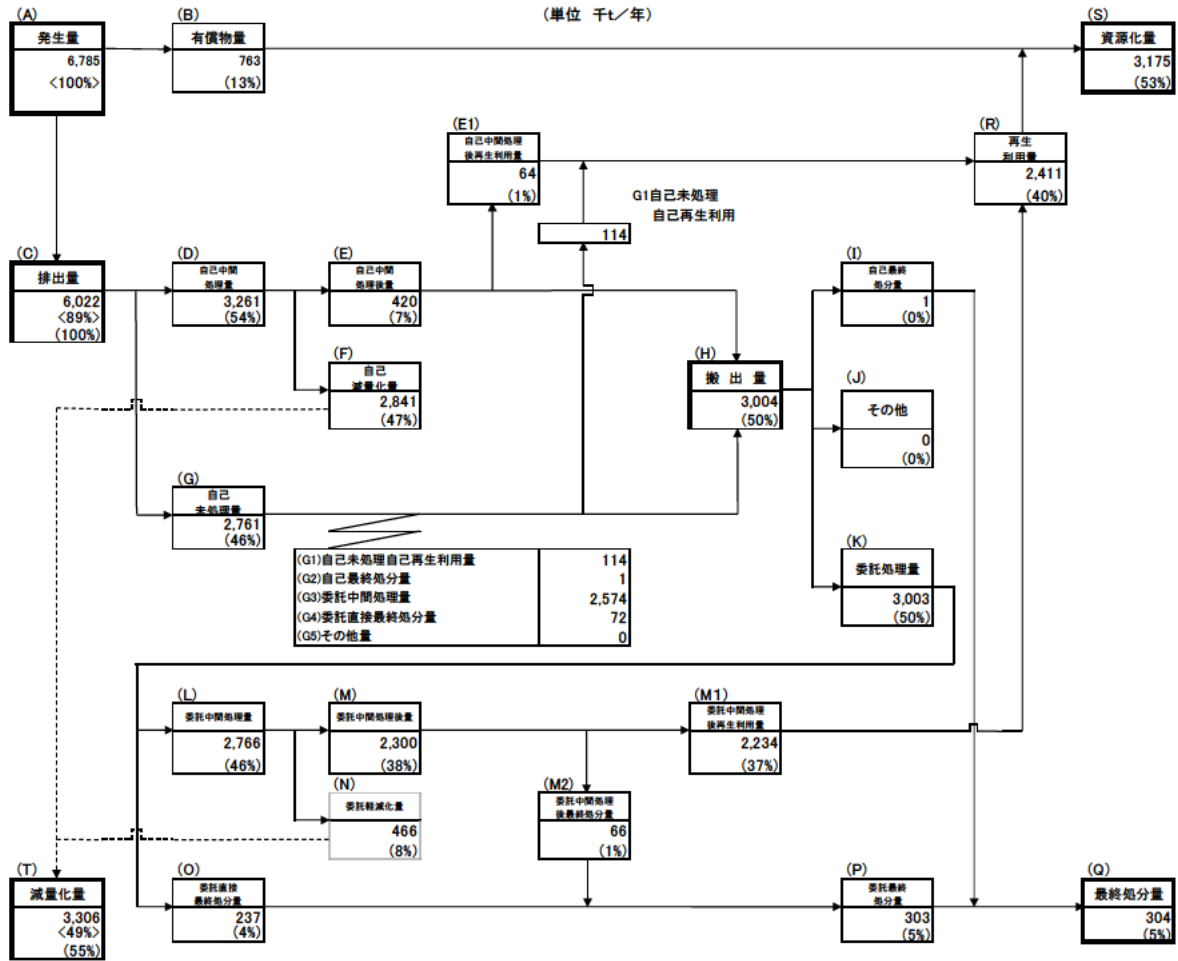


図 2-2-8 地域別発生量の種類別、業種別内訳

### 第3節 処理状況

#### 1 発生から処理・処分までの流れ

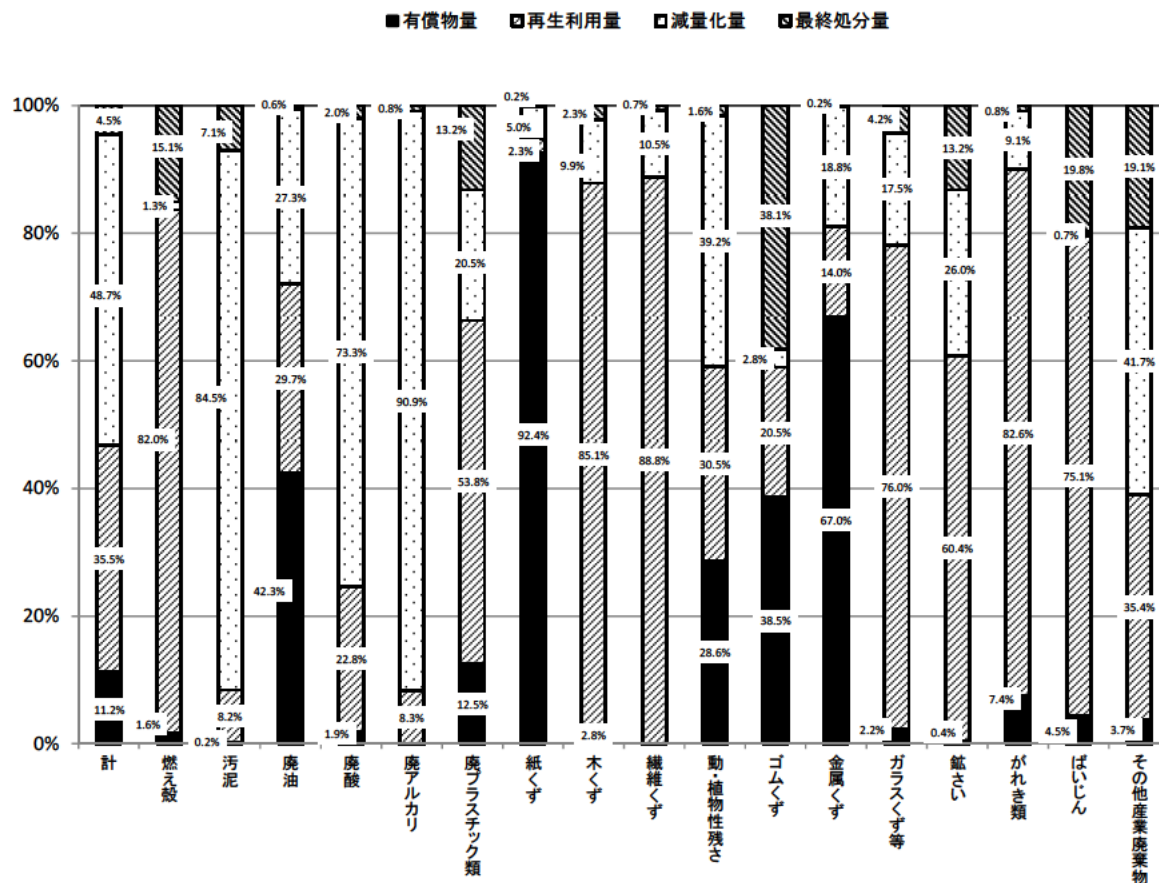
発生から最終処分までの産業廃棄物の流れは、図 2-3-1 に示すとおりである。



注: < >内は発生量に対する割合。( )内は排出量に対する割合。

図 2-3-1 発生から処理・処分までの流れ

種類別の発生量に対する資源化量、減量化量、最終処分量の構成比は、図 2-3-2 に示すとおりである。

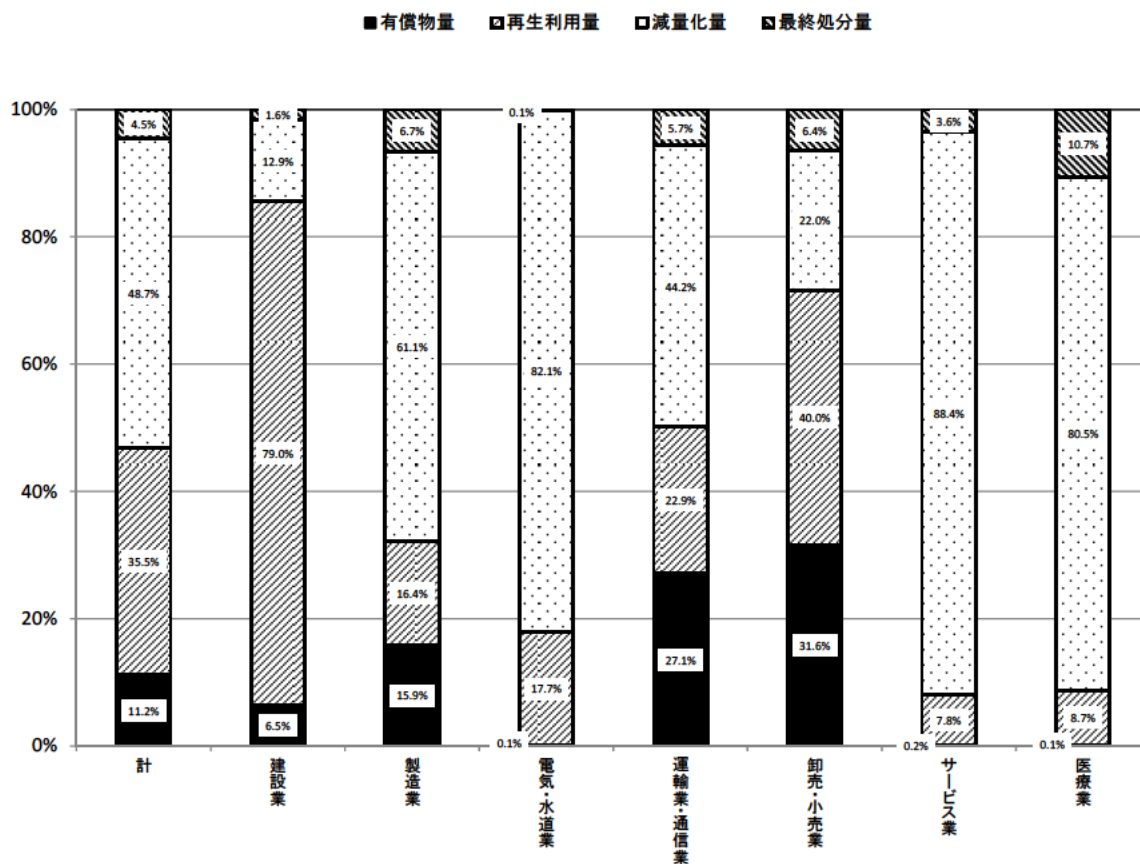


(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鉱さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
発生量	6,785	42	2,712	117	70	563	141	238	158	4	48	0	463	250	86	1,699	112	82
	(100.0%)	(0.6%)	(40.0%)	(1.7%)	(1.0%)	(8.3%)	(2.1%)	(3.5%)	(2.3%)	(0.1%)	(0.7%)	(0.0%)	(6.8%)	(3.7%)	(1.3%)	(25.0%)	(1.6%)	(1.2%)
資源化量	3,175	35	228	85	17	47	93	226	139	3	29	0	375	195	53	1,529	89	32
	(46.8%)	(83.6%)	(8.4%)	(72.0%)	(24.7%)	(8.3%)	(66.3%)	(94.7%)	(87.9%)	(88.8%)	(59.2%)	(59.0%)	(81.0%)	(78.2%)	(60.8%)	(90.0%)	(79.5%)	(39.0%)
有償物量	763	1	5	50	1	0	18	220	4	0	14	0	310	8	0	128	5	3
	(11.2%)	(1.6%)	(0.2%)	(42.3%)	(1.9%)	(0.0%)	(12.5%)	(92.4%)	(2.8%)	(0.0%)	(28.6%)	(38.5%)	(67.0%)	(2.2%)	(0.4%)	(7.4%)	(4.5%)	(3.7%)
再生利用量	2,411	34	223	35	16	47	76	5	135	3	15	0	65	190	52	1,403	84	29
	(35.5%)	(82.0%)	(8.2%)	(29.7%)	(22.8%)	(8.3%)	(53.8%)	(2.3%)	(85.1%)	(88.8%)	(30.5%)	(20.5%)	(14.0%)	(76.0%)	(60.4%)	(82.6%)	(75.1%)	(35.4%)
減量化量	3,306	1	2,291	32	51	512	29	12	16	0	19	0	87	44	22	155	1	34
	(48.7%)	(1.3%)	(84.5%)	(27.3%)	(73.3%)	(90.9%)	(20.5%)	(5.0%)	(9.9%)	(10.5%)	(39.2%)	(2.8%)	(18.8%)	(17.5%)	(26.0%)	(9.1%)	(0.7%)	(41.7%)
最終処分量	304	6	192	1	1	5	19	1	4	0	1	0	1	11	11	14	22	16
	(4.5%)	(15.1%)	(7.1%)	(0.6%)	(2.0%)	(0.8%)	(13.2%)	(0.2%)	(2.3%)	(0.7%)	(1.6%)	(38.1%)	(0.2%)	(4.2%)	(13.2%)	(0.8%)	(19.8%)	(19.1%)

図 2-3-2 種類別の発生量に対する資源化量、減量化量、最終処分量等の構成比



業種別の発生量に対する資源化量、減量化量、最終処分量の構成比は、図 2-3-3 に示すとおりである。



(千t/年)	計	建設業	製造業	電気・水道業	運輸業・通信業	卸売・小売業	サービス業	医療業
発生量	6,785 (100.0%)	2,072 (30.5%)	3,814 (56.2%)	608 (9.0%)	42 (0.6%)	38 (0.6%)	188 (2.8%)	23 (0.3%)
資源化量	3,175 (46.8%)	1,772 (85.5%)	1,229 (32.2%)	109 (17.9%)	21 (50.1%)	27 (71.6%)	15 (8.0%)	2 (8.8%)
有償物量	763 (11.2%)	134 (6.5%)	605 (15.9%)	1 (0.1%)	11 (27.1%)	12 (31.6%)	0 (0.2%)	0 (0.1%)
再生利用量	2,411 (35.5%)	1,638 (79.0%)	624 (16.4%)	108 (17.7%)	10 (22.9%)	15 (40.0%)	15 (7.8%)	2 (8.7%)
減量化量	3,306 (48.7%)	267 (12.9%)	2,329 (61.1%)	499 (82.1%)	18 (44.2%)	8 (22.0%)	166 (88.4%)	18 (80.5%)
最終処分量	304 (4.5%)	34 (1.6%)	256 (6.7%)	0 (0.1%)	2 (5.7%)	2 (6.4%)	7 (3.6%)	2 (10.7%)

図 2-3-3 業種別の発生量に対する資源化量、減量化量、最終処分量等の構成比

## 2 自己中間処理状況

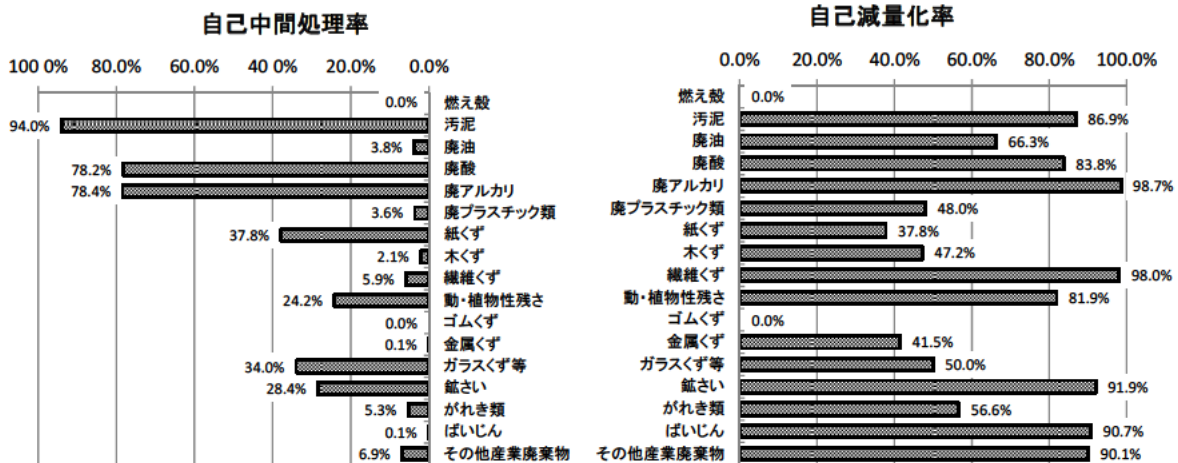
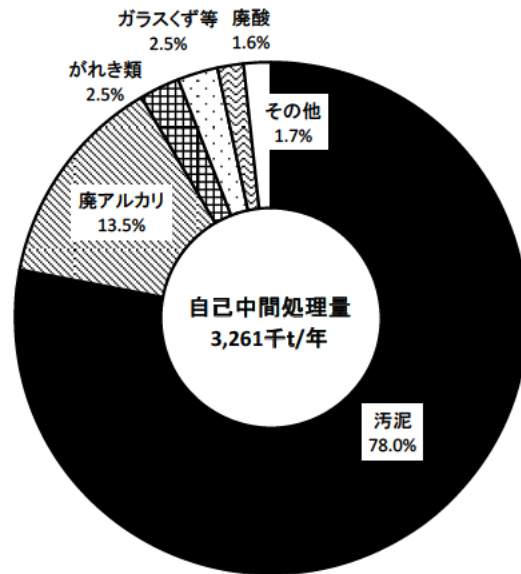
自己中間処理量は3,261千tとなっており、排出量6,022千tの54.2%を占めている。

種類別にみると、汚泥が全体の78.0%で最も多く、以下は、廃アルカリ13.5%、がれき類2.5%、ガラスくず等2.5%、廃酸1.6%などとなっている。(図2-3-4)

種類別の排出量に対する自己中間処理量の割合と、自己中間処理量に対する自己減量化量の割合は、図2-3-5に示すとおりである。

自己中間処理される割合が高いものは、汚泥(94.0%)で、自己中間処理による減量化率が高いのは、廃アルカリ(98.7%)、繊維くず(98.0%)、鉱さい(91.9%)、ばいじん(90.7%)、その他産業廃棄物(90.1%)などである。(図2-3-5)

図 2-3-4 自己中間処理量



注) 自己中間処理率 (上左図) : 排出量に対する自己中間処理量の割合 (%)

自己減量化率 (上右図) : 自己中間処理量に対する自己減量化量の割合 (%)

図 2-3-5 自己中間処理率と自己減量化率

### 3 委託処理状況

図 2-3-6 委託処理量

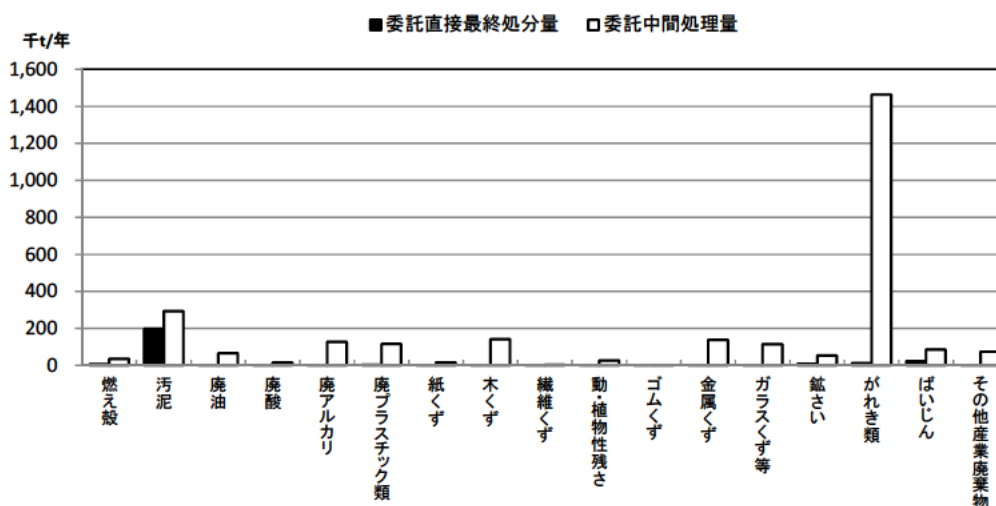
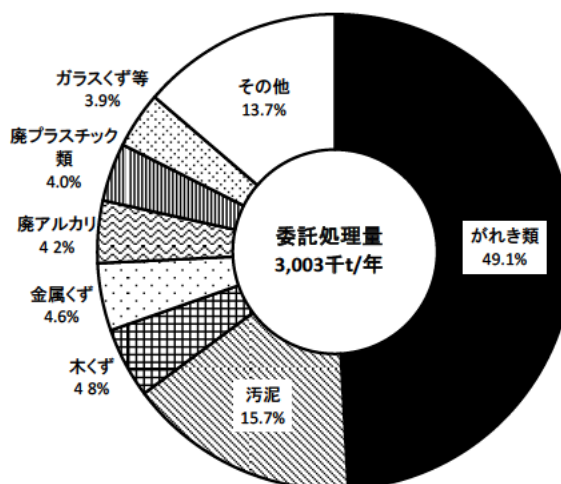
委託処理量は 3,003 千 t となっており、排出量の 49.9%を占めている。

種類別にみると、がれき類が 1,475 千 t (49.1%)で最も多く、次いで、汚泥が 472 千 t (15.7%)となっている。

(図 2-3-6)

委託処理量 3,003 千 tのうち、約 92%にあたる 2,766 千 tが中間処理されており、約 8%にあたる 237 千 tが直接最終処分されている。

(図 2-3-7)



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鋸さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
委託処理量	3,003	41	472	66	16	127	119	15	144	4	26	0	138	116	62	1,475	107	74
	(100.0%)	(1.4%)	(15.7%)	(2.2%)	(0.5%)	(4.2%)	(4.0%)	(0.5%)	(4.8%)	(0.1%)	(0.9%)	(0.0%)	(4.6%)	(3.9%)	(2.1%)	(49.1%)	(3.6%)	(2.5%)
委託直接最終処分量	237	6	179	0	0	0	4	0	2	0	0	0	1	2	9	12	22	0
	(100.0%)	(2.6%)	(75.3%)	(0.0%)	(0.1%)	(0.0%)	(1.7%)	(0.1%)	(0.7%)	(0.0%)	(0.2%)	(0.0%)	(0.2%)	(0.9%)	(3.8%)	(4.9%)	(9.3%)	(0.2%)
委託中間処理量	2,766	35	293	66	16	127	115	15	143	4	26	0	137	114	53	1,463	85	74
	(100.0%)	(1.3%)	(10.6%)	(2.4%)	(0.6%)	(4.6%)	(4.2%)	(0.6%)	(5.2%)	(0.1%)	(0.9%)	(0.0%)	(5.0%)	(4.1%)	(1.9%)	(52.9%)	(3.1%)	(2.7%)

図 2-3-7 種類別の委託処理量の内訳

#### 4 最終処分状況

最終処分量は304千tとなっており、排出量の5.0%を占めている。

種類別にみると、汚泥が192千t(63.2%)で最も多く、次いで、ばいじん 22千t(7.3%)、廃プラスチック類が19千t(6.1%)、がれき類が14千t(4.7%)、鉱さい11千t(4.7%)となっている。(図2-3-8)

また、業種別にみると製造業の256千t(84.2%)と建設業の33.6千t(11.1%)で全体の約95.3%を占めている。(図2-3-9)

最終処分量304千tの処分先を主体別にみると、業者等による委託最終処分量が303t(約99.7%)とそのほとんどを占めている。(図2-3-10)

図2-3-8 種類別の最終処分量

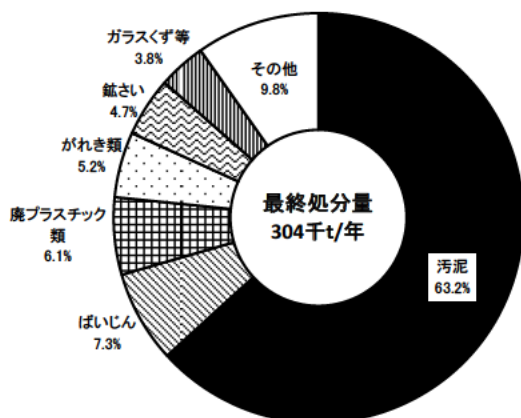
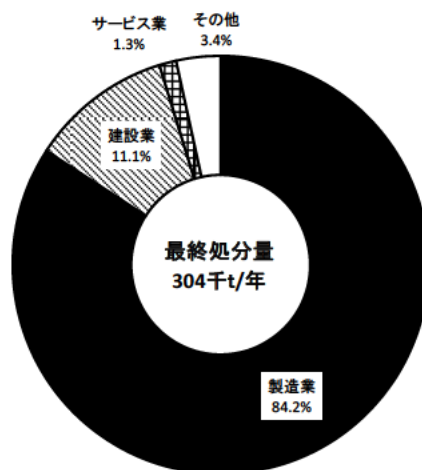


図2-3-9 業種別の最終処分量



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鉱さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
最終処分量(計)	304	6	192	1	1	5	19	1	4	0	1	0	1	11	11	14	22	16
	(100.0%)	(2.1%)	(63.2%)	(0.2%)	(0.5%)	(1.6%)	(6.1%)	(0.2%)	(1.2%)	(0.0%)	(0.3%)	(0.0%)	(0.3%)	(3.5%)	(3.8%)	(4.7%)	(7.3%)	(5.2%)
自己最終処分量	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(100.0%)	(0.0%)	(1.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(21.4%)	(0.0%)	(21.1%)	(0.0%)	(0.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(28.6%)	(0.0%)	(27.7%)	(0.0%)	(0.0%)
委託最終処分量	303	6	192	1	1	5	18	1	3	0	1	0	1	10	11	14	22	16
	(100.0%)	(2.1%)	(63.4%)	(0.2%)	(0.5%)	(1.6%)	(6.0%)	(0.2%)	(1.1%)	(0.0%)	(0.3%)	(0.0%)	(0.3%)	(3.4%)	(3.8%)	(4.6%)	(7.3%)	(5.2%)
うち委託直接最終処分	237	6	179	0	0	0	4	0	2	0	0	0	1	2	9	12	22	0

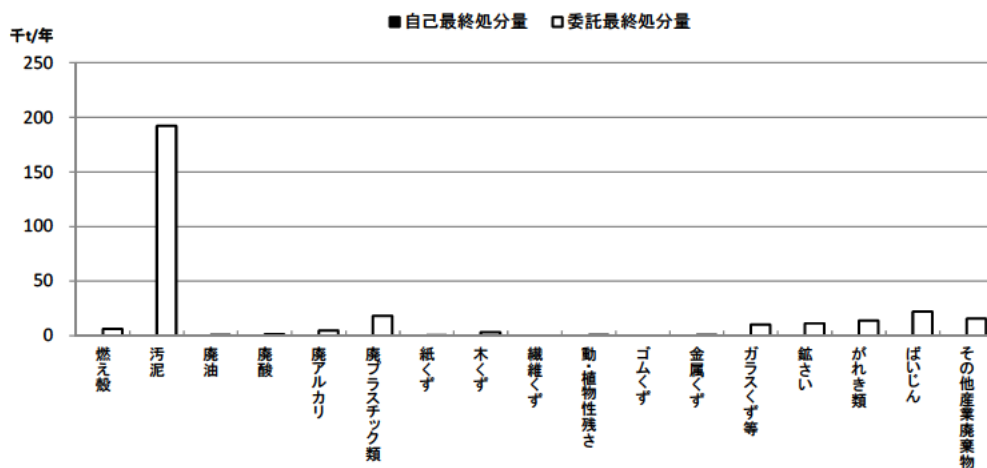


図2-3-10 種類別・処分主体別の最終処分量

## 5 再生利用状況

再生利用量は2,411千tとなっており、排出量の40.0%を占めている。

種類別にみると、がれき類が1,403千t（58.2%）で最も多く、以下、汚泥が223千t（9.3%）、ガラスくず等190千t（7.9%）などとなっている。（図2-3-11）

また、業種別にみると建設業の1,638千t（67.9%）と製造業の624千t（25.9%）で全体の約93.8%を占めている。（図2-3-12）再生利用量は、自己中間処理後再生利用量64千t、委託中間処理後再生利用量2,231千t、自己未処理自己再生利用量114千tに区分される。（図2-3-13）

図 2-3-11 種類別の再生利用量

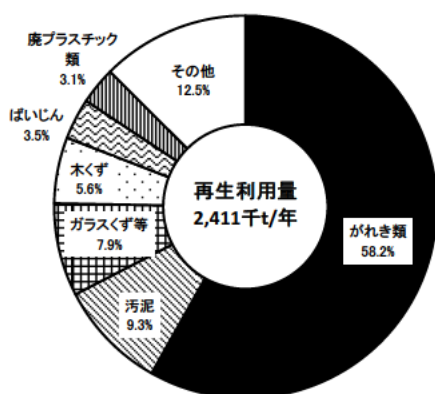
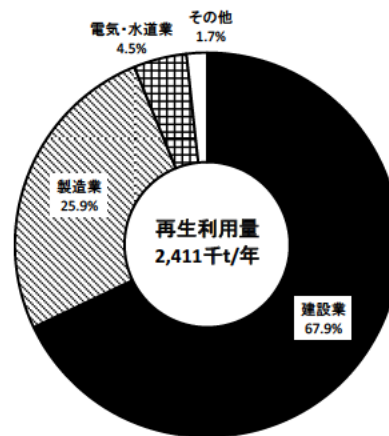


図 2-3-12 業種別の最終処分量



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鋳さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
再生利用量	2,411	34	223	35	16	47	76	5	135	3	15	0	65	190	52	1,403	84	29
	(100.0%)	(1.4%)	(9.3%)	(1.4%)	(0.7%)	(1.9%)	(3.1%)	(0.2%)	(5.6%)	(0.1%)	(0.6%)	(0.0%)	(2.7%)	(7.9%)	(2.2%)	(58.2%)	(3.5%)	(1.2%)
自己中間処理後再生利用量	64	0	4	0	8	0	1	0	0	0	1	0	0	12	1	36	0	0
	(100.0%)	(0.0%)	(7.1%)	(0.0%)	(12.1%)	(0.0%)	(0.9%)	(0.0%)	(0.7%)	(0.0%)	(2.4%)	(0.0%)	(0.1%)	(18.1%)	(2.0%)	(56.7%)	(0.0%)	(0.0%)
委託中間処理後再生利用量	2,234	34	217	35	8	47	74	5	127	3	13	0	50	103	51	1,353	84	29
	(100.0%)	(1.5%)	(9.7%)	(1.6%)	(0.4%)	(2.1%)	(3.3%)	(0.2%)	(5.7%)	(0.2%)	(0.6%)	(0.0%)	(2.2%)	(4.6%)	(2.3%)	(60.5%)	(3.8%)	(1.3%)
自己未処理自己再生利用量	114	0	1	0	0	0	1	0	7	0	0	0	15	75	0	14	0	0
	(99.9%)	(0.0%)	(1.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.9%)	(0.0%)	(6.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(13.1%)	(65.9%)	(0.0%)	(12.4%)	(0.0%)	(0.0%)

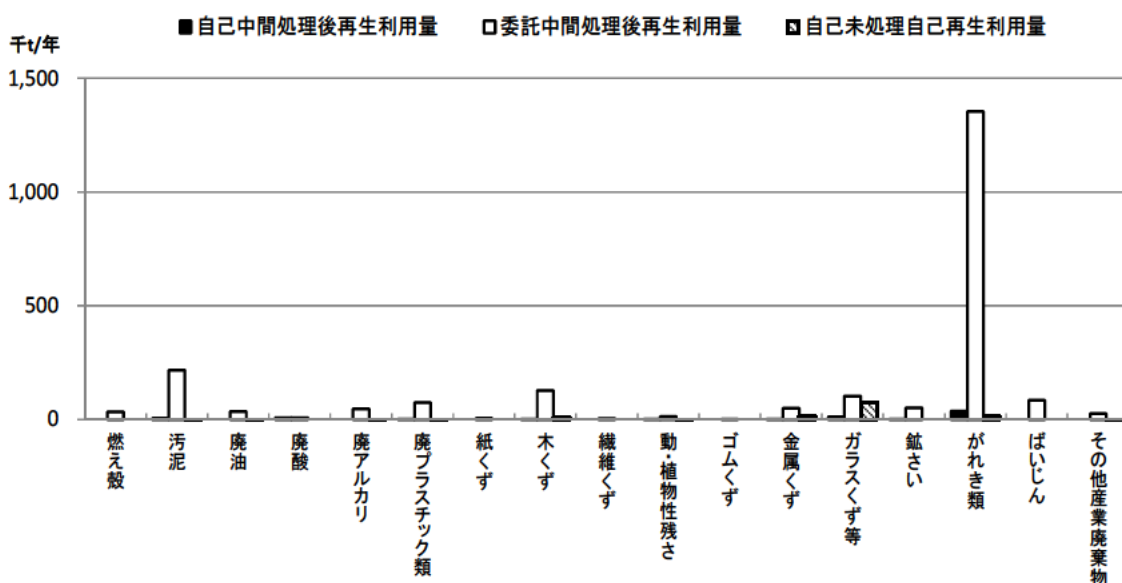


図 2-3-13 再生利用量の内訳

## 第4節 種類別の調査結果

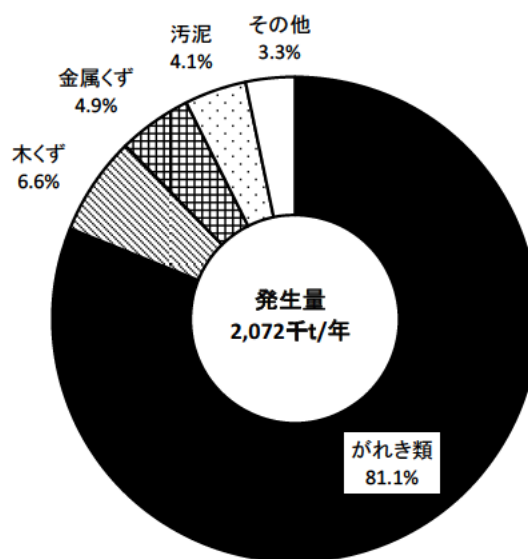
### 1 建設業

建設業からの発生量は2,072千tとなっており、県全体の発生量の30.5%を占めている。

発生量を種類別にみると、がれき類が1,680.5千t(81.1%)で最も多く、次いで木くず136.6千t(6.6%)、金属くず101.6千t(4.9%)、汚泥85.7千t(4.1%)となっている。(図2-4-1)

建設業から発生する産業廃棄物の種類別の発生量、資源化量及び最終処分量は図2-4-2に、排出及び処理状況は、図2-4-3に示すとおりである。

図2-4-1 建設業の種類別発生量



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鉱さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
発生量	2,072	0.0	85.7	0.4	0.0	2.2	25.3	4.0	136.6	3.4	0.0	0.0	101.6	32.0	0.0	1,680.5	0.0	0.4
	(100.0%)	(0.0%)	(4.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.1%)	(1.2%)	(0.2%)	(6.6%)	(0.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(4.9%)	(1.5%)	(0.0%)	(81.1%)	(0.0%)	(0.0%)
資源化量	1,772	0.0	60.1	0.2	0.0	0.0	15.3	3.3	121.6	3.3	0.0	0.0	17.6	28.4	0.0	1,522.0	0.0	0.0
	(100.0%)	(0.0%)	(3.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.9%)	(0.2%)	(6.9%)	(0.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(1.0%)	(1.6%)	(0.0%)	(85.9%)	(0.0%)	(0.0%)
最終処分量	34	0.0	5.7	0.2	0.0	2.2	6.2	0.2	2.4	0.0	0.0	0.0	0.3	2.4	0.0	13.6	0.0	0.3
	(100.0%)	(0.1%)	(17.1%)	(0.6%)	(0.0%)	(6.7%)	(18.5%)	(0.5%)	(7.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.9%)	(7.2%)	(0.0%)	(40.5%)	(0.0%)	(0.9%)

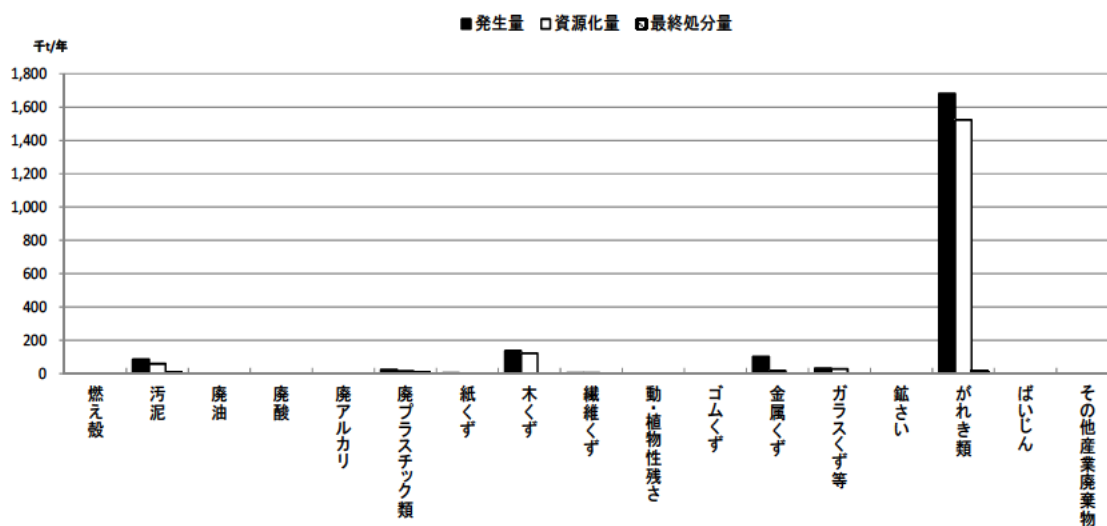
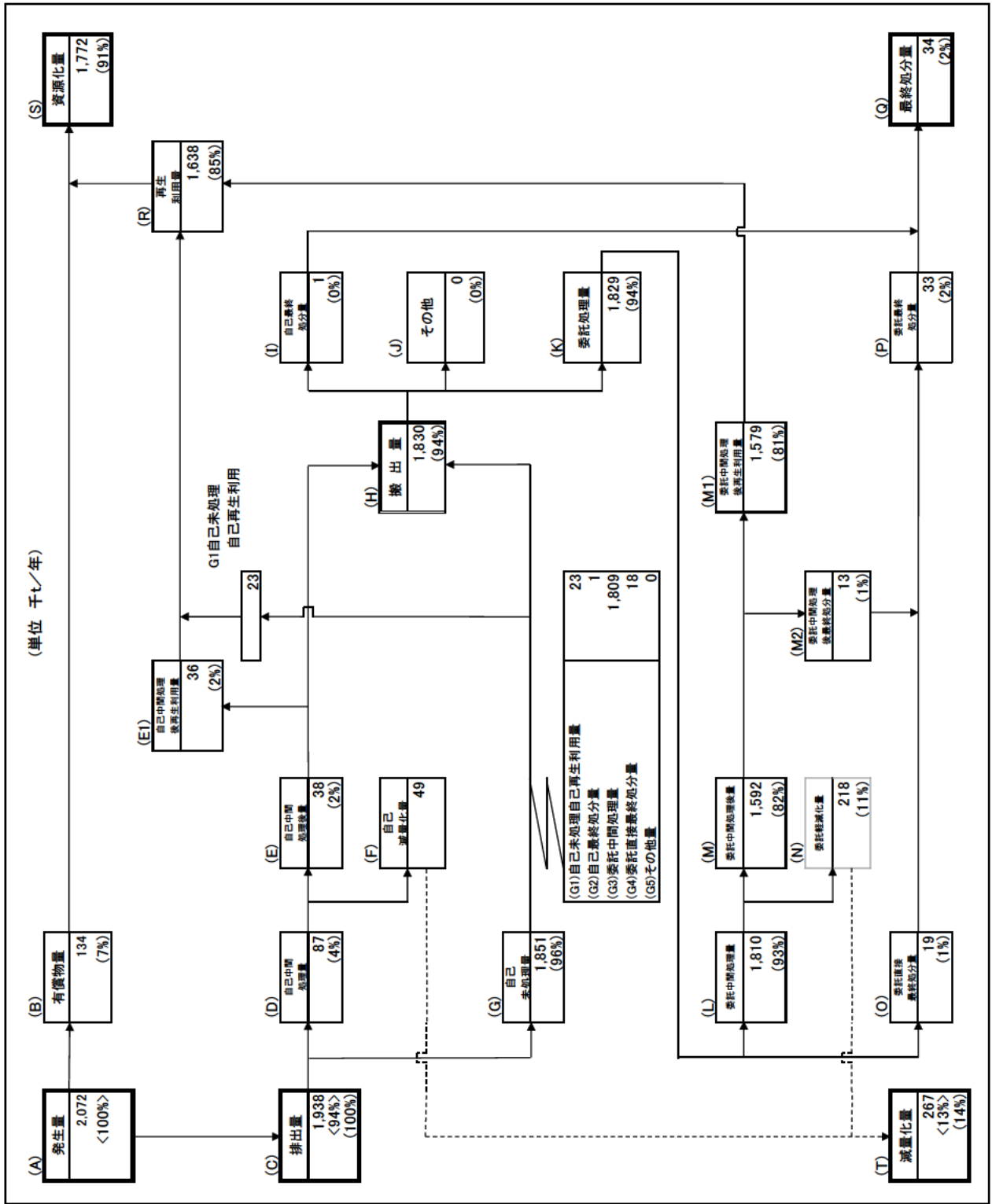


図2-4-2 建設業の種類別発生量、資源化量、最終処分量



注：< >内は発生量に対する割合。( )内は排出量に対する割合。

図 2-4-3 建設業からの排出及び処理状況

## 2 製造業

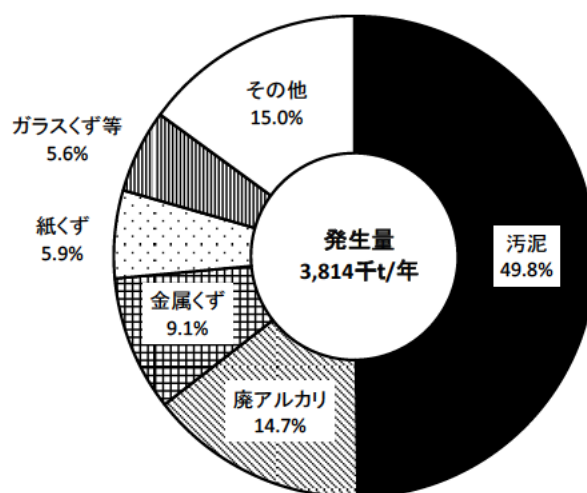
製造業からの発生量は3,814千tとなっており、県全体の発生量の56.2%を占めている。

発生量を種類別にみると、汚泥が1,899千t(49.8%)で最も多く、次いで廃アルカリ559千t(14.7%)、金属くず346.8千t(9.1%)となっている。

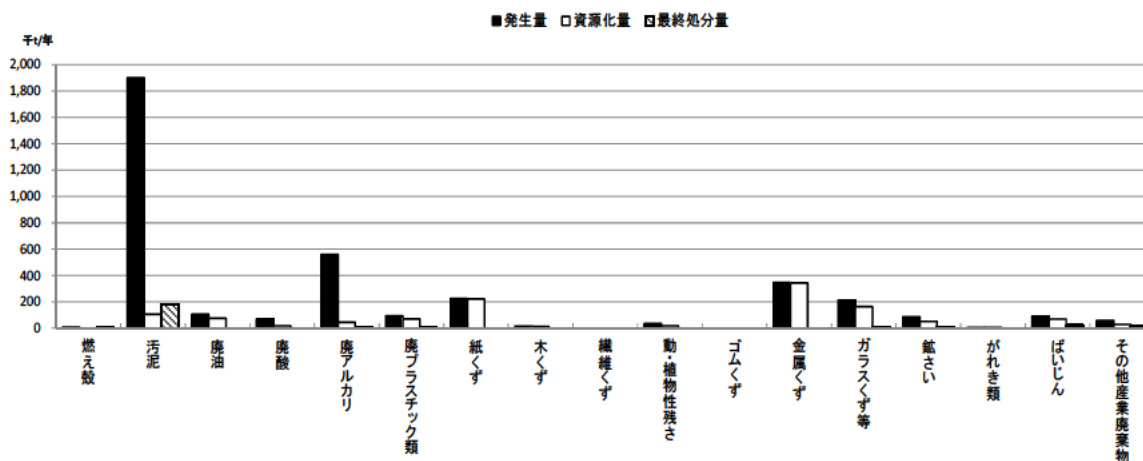
(図 2-4-4)

製造業から発生する産業廃棄物の種類別の発生量、資源化量及び最終処分量は、図 2-4-5 に、排出及び処理状況は、図 2-4-6 に示すとおりである。

図 2-4-4 製造業の種類別発生量



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鉱さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
発生量	3,814.2	7.4	1,899.2	106.3	69.8	559.0	93.8	225.2	14.7	0.5	34.7	0.0	346.8	213.5	86.4	6.0	91.2	59.7
	(100.0%)	(0.2%)	(49.8%)	(2.8%)	(1.8%)	(14.7%)	(2.5%)	(5.9%)	(0.4%)	(0.0%)	(0.9%)	(0.0%)	(9.1%)	(5.6%)	(2.3%)	(0.2%)	(2.4%)	(1.6%)
資源化量	1,229.0	1.1	104.4	75.3	17.2	45.4	70.6	221.8	11.6	0.1	18.0	0.0	343.6	163.8	52.5	5.4	69.1	28.9
	(100.0%)	(0.1%)	(8.5%)	(6.1%)	(1.4%)	(3.7%)	(5.7%)	(18.0%)	(0.9%)	(0.0%)	(1.5%)	(0.0%)	(28.0%)	(13.3%)	(4.3%)	(0.4%)	(5.6%)	(2.3%)
最終処分量	255.9	6.2	183.4	0.5	1.4	2.3	5.9	0.4	0.3	0.0	0.6	0.0	0.3	7.3	11.4	0.6	22.1	13.3
	(100.0%)	(2.4%)	(71.7%)	(0.2%)	(0.5%)	(0.9%)	(2.3%)	(0.1%)	(0.1%)	(0.0%)	(0.2%)	(0.0%)	(0.1%)	(2.9%)	(4.4%)	(0.2%)	(8.6%)	(5.2%)



2-4-5 製造業の種類別発生量、資源化量、最終処分量



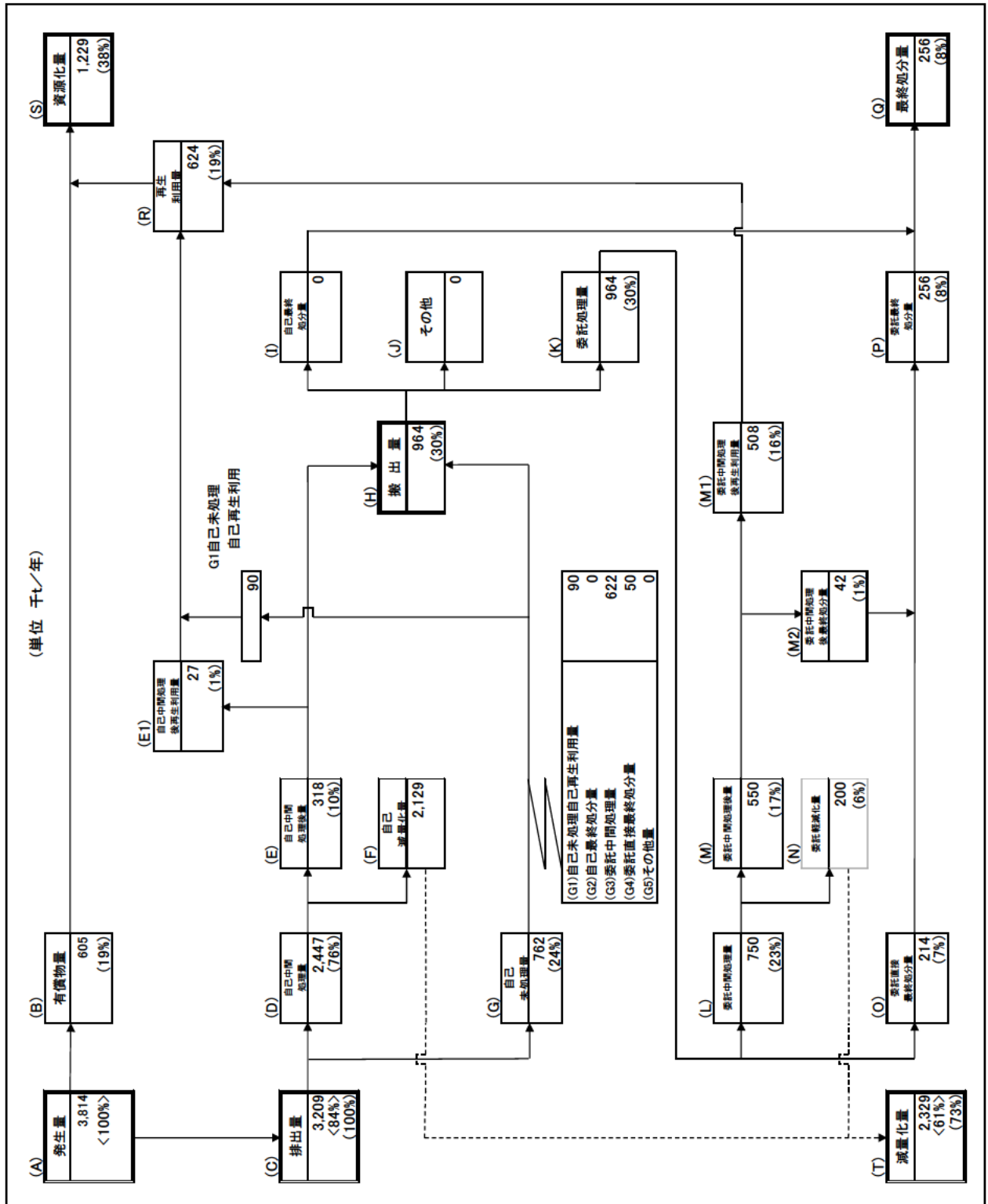


図 2-4-6 製造業からの排出及び処理状況

### 3 電気・水道業

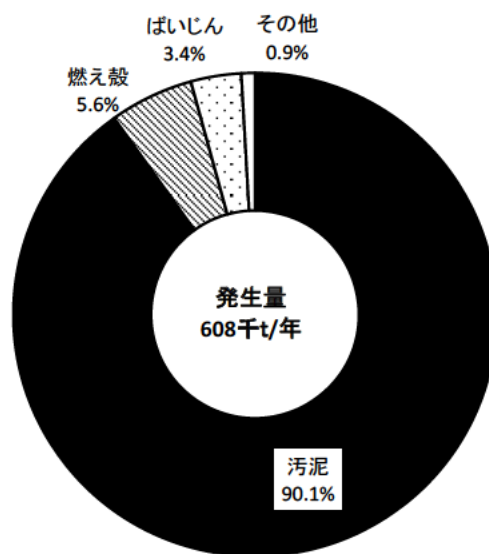
電気・水道業からの発生量は608千tとなっており、県全体の発生量の9.0%を占めている。

発生量を種類別にみると、汚泥が548千t(90.1%)とほとんどを占めている。

(図2-4-7)

電気・水道業から発生する産業廃棄物の種類別の発生量、資源化量及び最終処分量は図2-4-8に、排出及び処理状況は、図2-4-9に示すとおりである。

図2-4-7 電気・水道の種類別発生量



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鉱さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
発生量	608.1 (99.9%)	34.2 (5.6%)	547.9 (90.1%)	0.2 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.2 (0.0%)	0.1 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.1 (0.2%)	0.1 (0.0%)	0.0 (0.0%)	3.7 (0.6%)	20.6 (3.4%)	0.1 (0.0%)
資源化量	108.6 (99.9%)	33.7 (31.0%)	52.2 (48.1%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.9 (0.9%)	0.1 (0.1%)	0.0 (0.0%)	1.7 (1.6%)	19.8 (18.2%)	0.1 (0.1%)
最終処分量	0.5 (100.0%)	0.0 (0.0%)	0.3 (50.7%)	0.0 (0.5%)	0.0 (0.0%)	0.2 (38.3%)	0.0 (5.1%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.5%)	0.0 (4.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.8%)

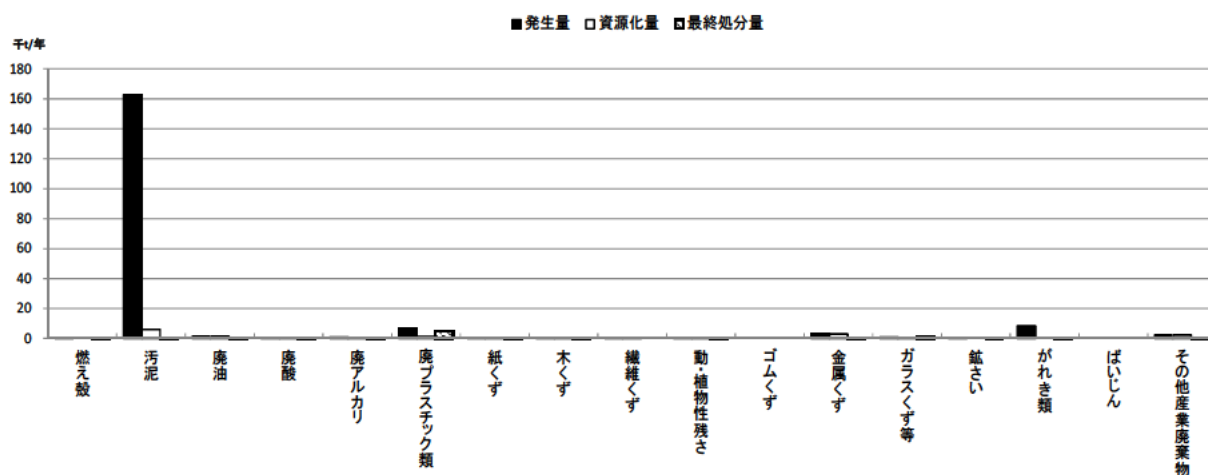
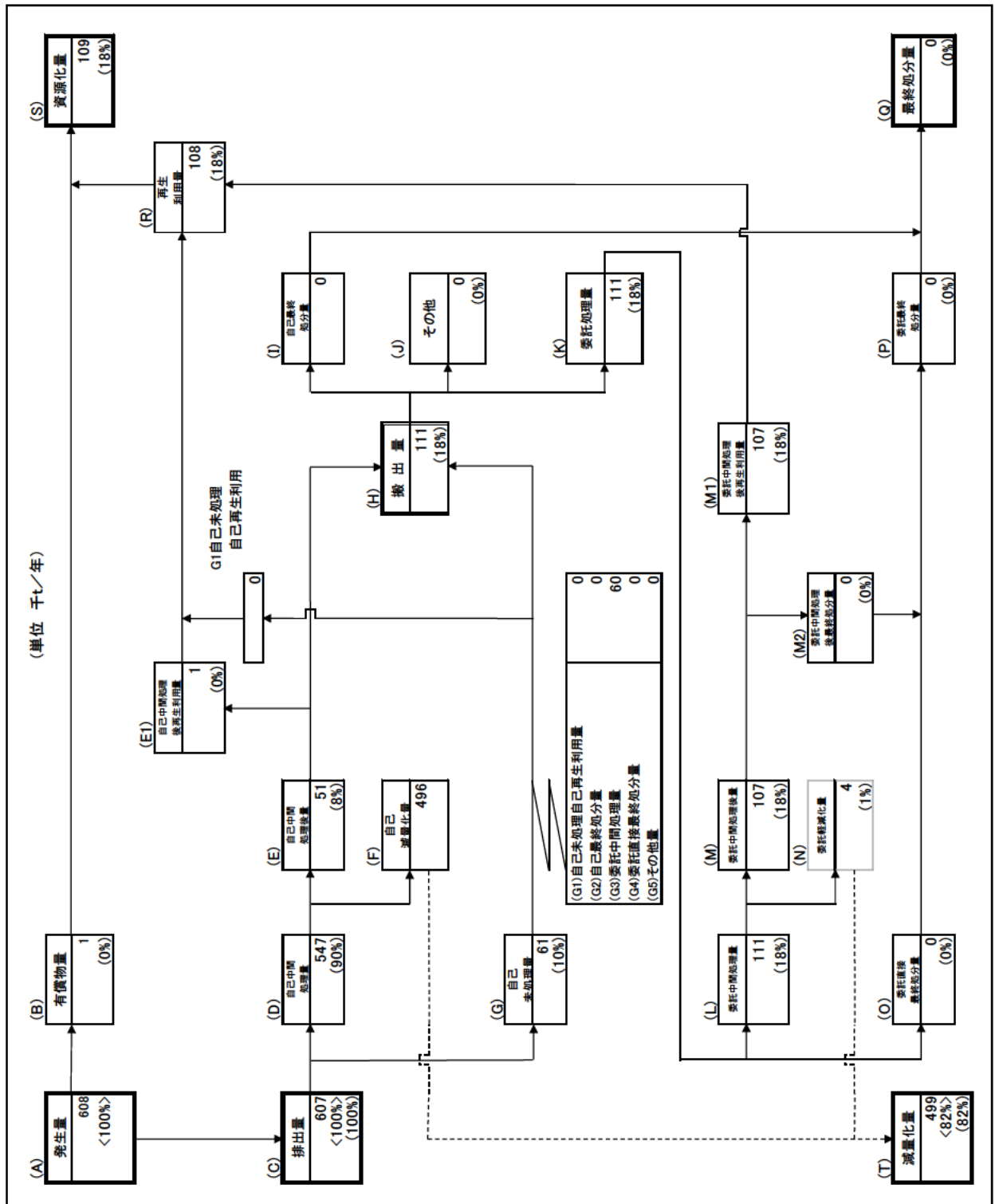


図2-4-8 電気・水道の種類別発生量、資源化量、最終処分量



注：< >内は発生量に対する割合。( )内は排出量に対する割合。

図 2-4-9 電気・水道業からの排出及び処理状況

#### 4 運輸業・通信業

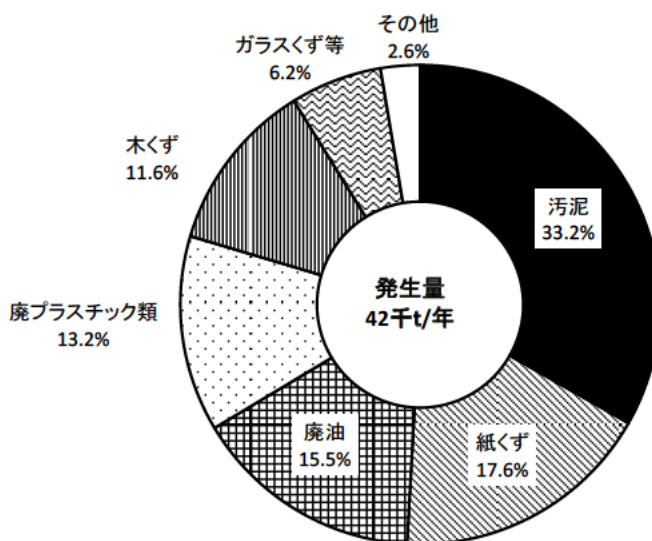
運輸業・通信業からの発生量は42千tとなっている。

発生量を種類別にみると、汚泥が14千t(33.2%)で最も多く、次いで紙くずが7.3千t(17.6%)、となっている。

(図2-4-10)

運輸業・通信業から発生する産業廃棄物の種類別の発生量、資源化量及び最終処分量は図2-4-11に、排出及び処理状況は、図2-4-12に示すとおりである。

図2-4-10 運輸業・通信業の種類別発生量



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鉱さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
発生量	41.5	0.1	13.8	6.4	0.1	0.0	5.5	7.3	4.8	0.0	0.2	0.0	0.6	2.6	0.0	0.1	0.0	0.0
	(100.0%)	(0.1%)	(33.2%)	(15.5%)	(0.3%)	(0.0%)	(13.2%)	(17.8%)	(11.6%)	(0.1%)	(0.4%)	(0.0%)	(1.4%)	(6.2%)	(0.0%)	(0.3%)	(0.0%)	(0.0%)
資源化量	20.8	0.1	5.2	5.9	0.0	0.0	1.7	0.0	4.7	0.0	0.0	0.0	0.6	2.5	0.0	0.1	0.0	0.0
	(100.0%)	(0.3%)	(25.0%)	(28.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(8.3%)	(0.2%)	(22.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(2.8%)	(12.2%)	(0.0%)	(0.3%)	(0.0%)	(0.0%)
最終処分量	2.4	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
	(100.0%)	(0.0%)	(81.5%)	(0.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(10.3%)	(0.0%)	(3.5%)	(0.0%)	(0.4%)	(0.0%)	(0.2%)	(0.8%)	(0.0%)	(3.1%)	(0.0%)	(0.1%)

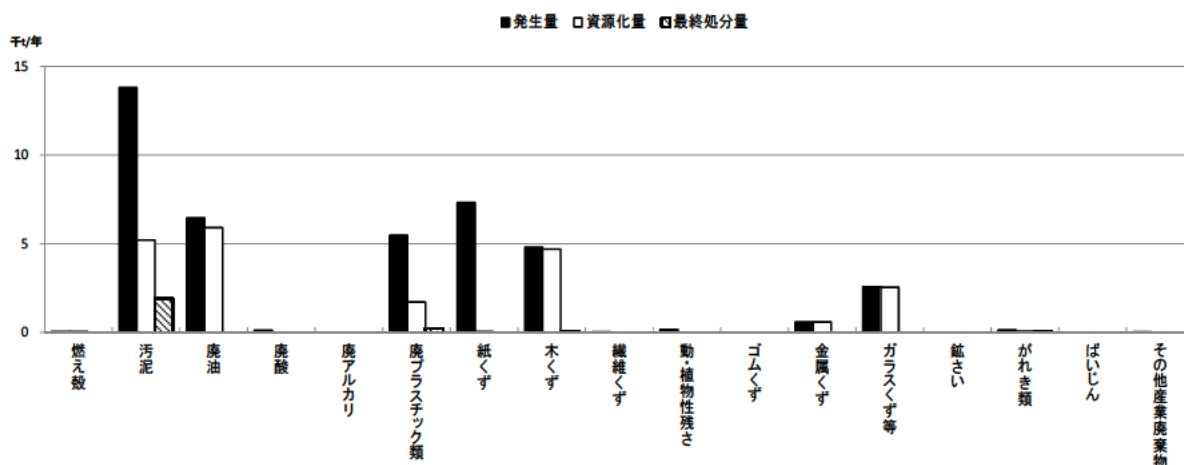


図2-4-11 運輸業・通信業の種類別発生量、資源化量、最終処分量



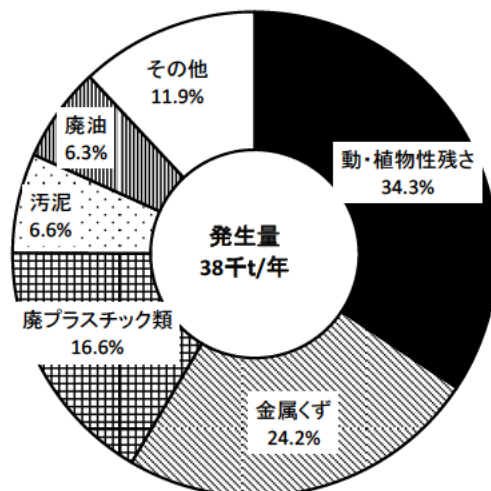
## 5 御・小売業

卸・小売業からの発生量は38千tと  
なっている。

発生量を種類別にみると、動・植物  
性残さが13.1千t(34.3%)で最も多  
く、次いで金属くず9.2千t(24.2%)  
となっている。(図2-4-13)。

卸・小売業から発生する産業廃棄物  
の種類別の発生量、資源化量及び最終  
処分量は図2-4-14に、排出及び処理状  
況は、図2-4-15に示すとおりである。

図2-4-13 御・小売業の種類別発生量



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鋳さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物	
発生量	38.1		2.5	2.4	0.0	0.7	6.3	1.8	1.7	0.0	13.1		9.2	0.4					0.1
	(100.0%)	(0.0%)	(6.6%)	(6.3%)	(0.0%)	(1.7%)	(16.6%)	(4.6%)	(4.4%)	(0.0%)	(34.3%)	(0.0%)	(24.2%)	(1.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.2%)
資源化量	27.3		0.4	1.7	0.0	0.6	3.2	0.8	0.9	0.0	10.7		8.8	0.3					0.0
	(100.0%)	(0.0%)	(1.3%)	(6.1%)	(0.0%)	(2.2%)	(11.7%)	(2.8%)	(3.3%)	(0.0%)	(39.3%)	(0.0%)	(32.4%)	(1.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
最終処分量	2.5		0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.7	0.0	0.0		0.1	0.1					0.0
	(100.0%)	(0.0%)	(19.4%)	(0.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(39.4%)	(1.4%)	(27.8%)	(0.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(5.6%)	(4.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(1.8%)

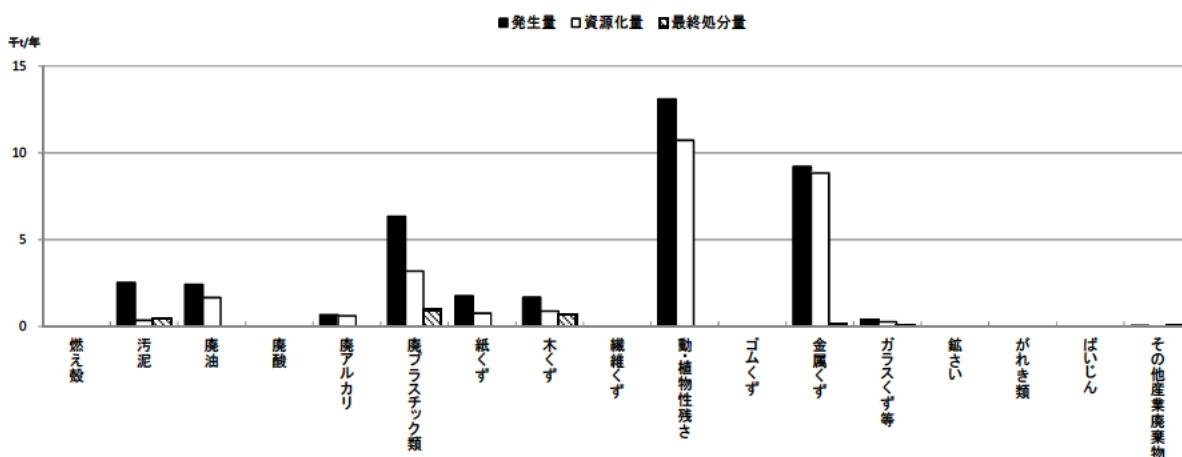


図2-4-14 御・小売業の種類別発生量、資源化量、最終処分量



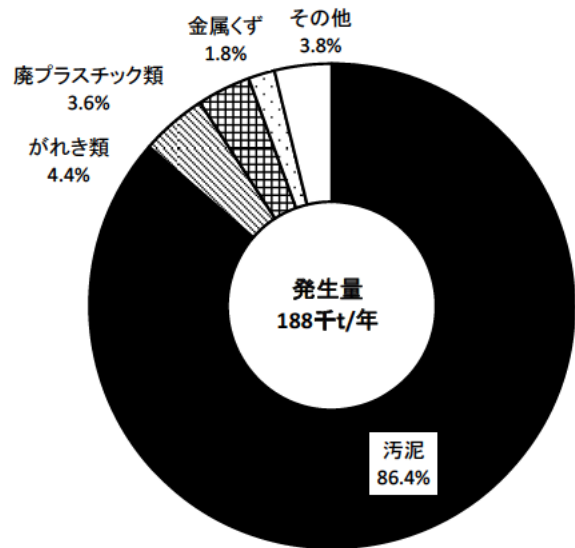
## 6 サービス業

サービス業からの発生量は188千tとなっている。

発生量を種類別にみると、汚泥が162.7千t(86.4%)で最も多く、次いでがれき類8.4千t(4.4%)となっている(図2-4-16)。

サービス業から発生する産業廃棄物の種類別の発生量、資源化量及び最終処分量は図2-4-17に、排出及び処理状況は、図2-4-18に示すとおりである。

図2-4-16 サービス業の種類別発生量



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鉱さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
発生量	188.3 (100.0%)	0.1 (0.0%)	162.7 (86.4%)	1.6 (0.8%)	0.0 (0.0%)	1.0 (0.5%)	6.7 (3.6%)	0.1 (0.0%)	0.5 (0.3%)	0.0 (0.0%)	0.6 (0.3%)	0.0 (0.0%)	3.3 (1.8%)	0.9 (0.5%)	0.0 (0.0%)	8.4 (4.4%)	0.0 (0.0%)	2.5 (1.3%)
資源化量	15.1 (100.0%)	0.0 (0.0%)	6.1 (40.2%)	1.4 (9.2%)	0.0 (0.1%)	0.6 (4.3%)	1.2 (8.2%)	0.0 (0.1%)	0.3 (2.1%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	2.9 (19.3%)	0.1 (0.9%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	2.4 (15.6%)
最終処分量	6.7 (100.0%)	0.1 (0.8%)	0.5 (6.9%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.6%)	4.8 (70.7%)	0.0 (0.1%)	0.1 (1.4%)	0.0 (0.0%)	0.2 (3.1%)	0.0 (0.0%)	0.3 (3.8%)	0.7 (11.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (1.5%)

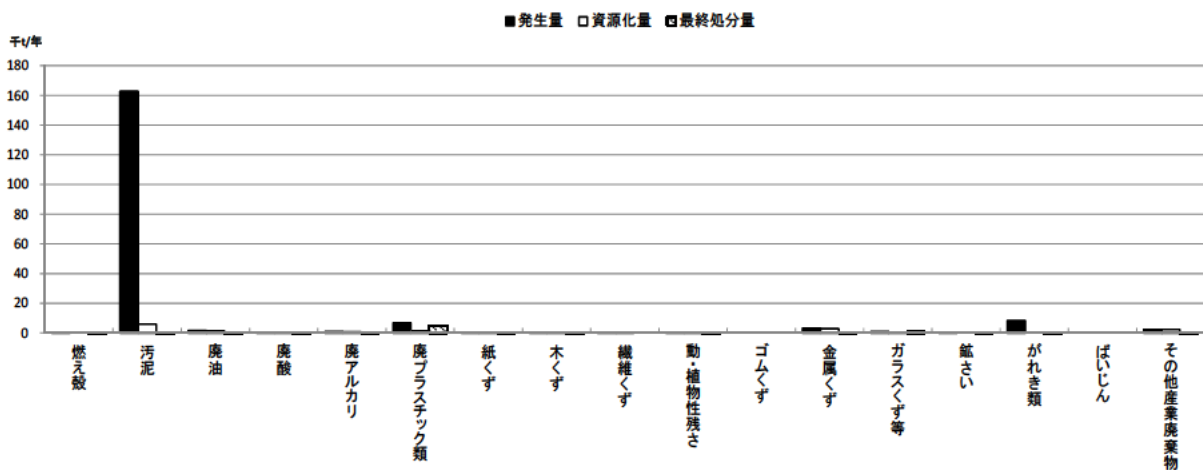
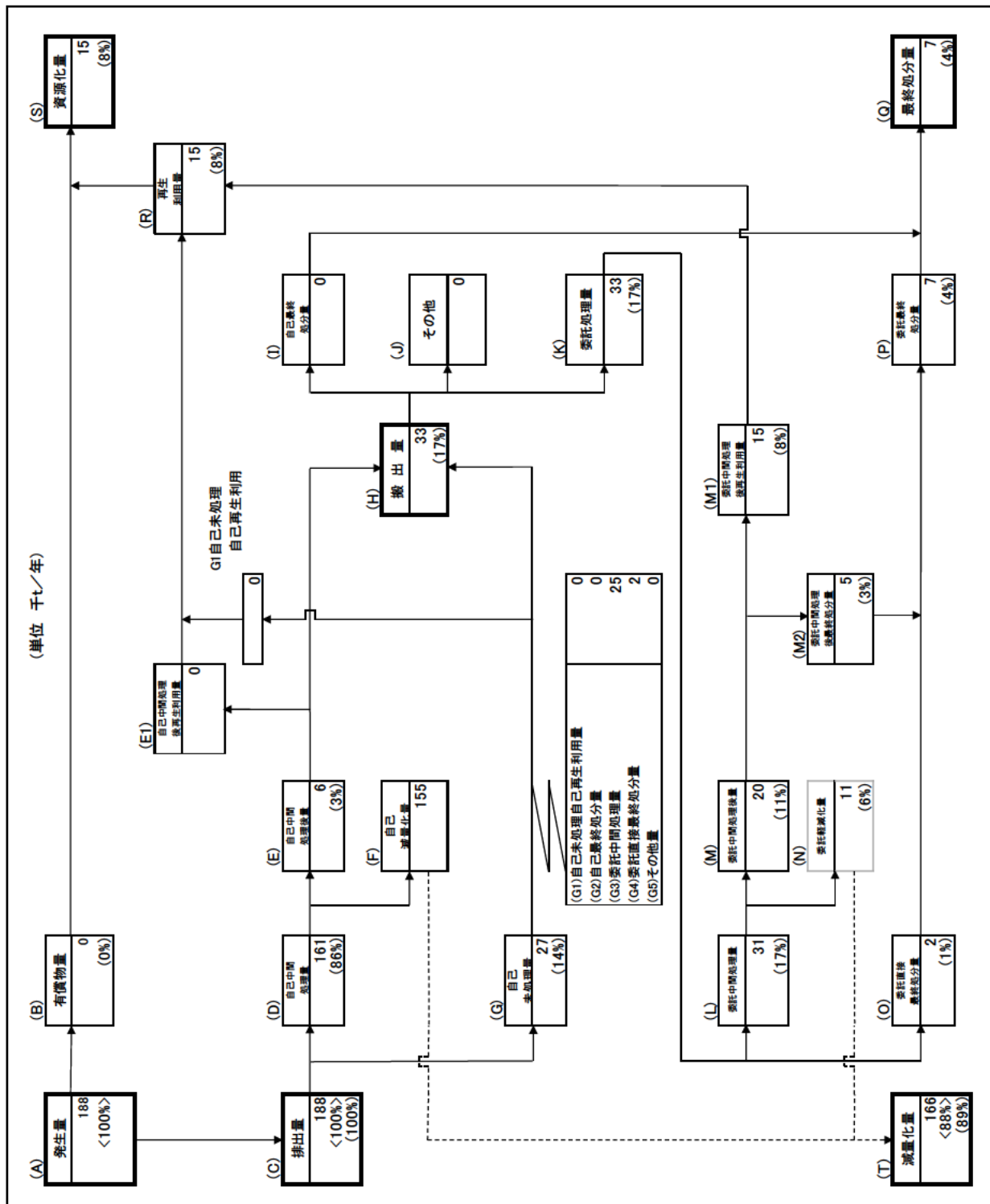


図2-4-17 サービス業の種類別発生量、資源化量、最終処分量





注：< >内は発生量に対する割合。( )内は排出量に対する割合。

図 2-4-18 サービス業からの排出及び処理状況

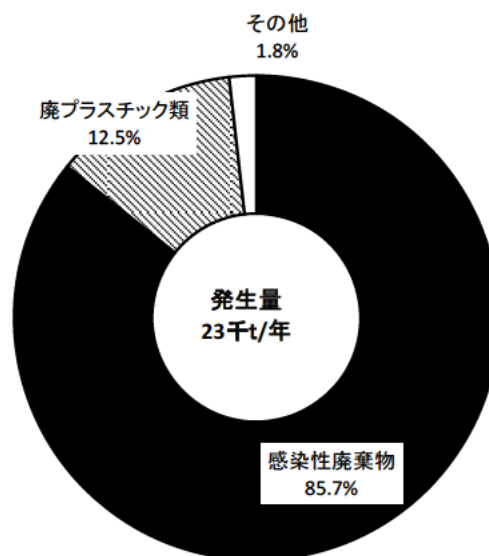
## 7 医療業

医療業からの発生量は23千tとなっている。

発生量を種類別にみると、感染性廃棄物が19.5千t(85.7%)で最も多く、次いで廃プラスチック類2.8千t(12.5%)となっている(図2-4-19)。

医療業から発生する産業廃棄物の種類別の発生量、資源化量及び最終処分量は図2-4-20に、排出及び処理状況は、図2-4-21に示すとおりである。

図2-4-19 医療業の種類別発生量



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鋳さい	がれき類	感染性廃棄物	その他産業廃棄物
発生量	22.8		0.1	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0			0.0	0.2	0.1			19.5	0.0
	(99.9%)	(0.0%)	(0.5%)	(0.1%)	(0.1%)	(0.0%)	(12.5%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.8%)	(0.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(85.7%)	(0.0%)
資源化量	2.0		0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0			0.0	0.2	0.0			0.7	0.0
	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.9%)	(0.5%)	(51.0%)	(0.0%)	(0.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.1%)	(8.8%)	(1.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(37.2%)	(0.1%)
最終処分量	2.4		0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0			0.0	0.0	0.0			2.0	0.0
	(100.0%)	(0.0%)	(0.6%)	(0.5%)	(0.0%)	(0.0%)	(16.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(1.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(81.8%)	(0.1%)

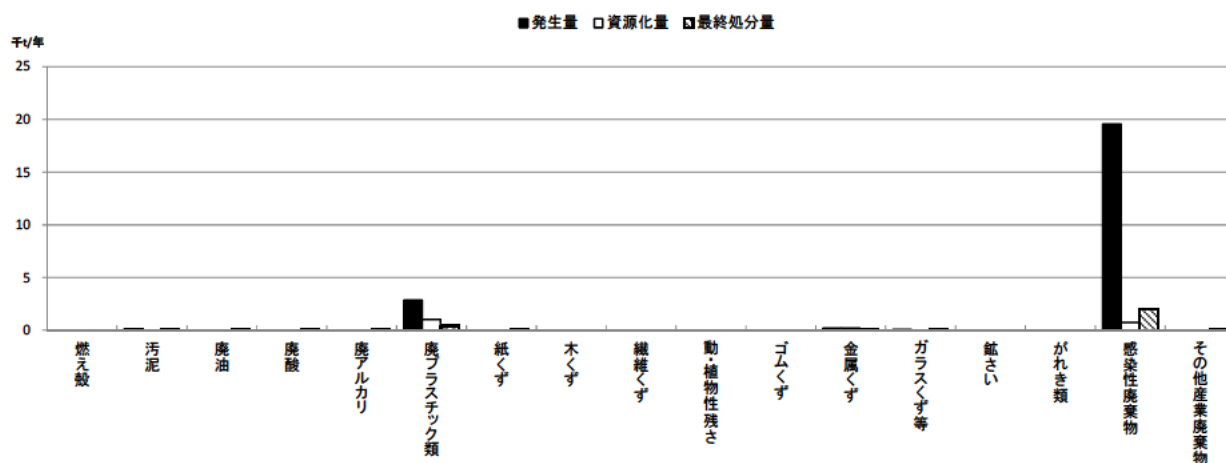


図2-4-20 医療業の種類別発生量、資源化量、最終処分量

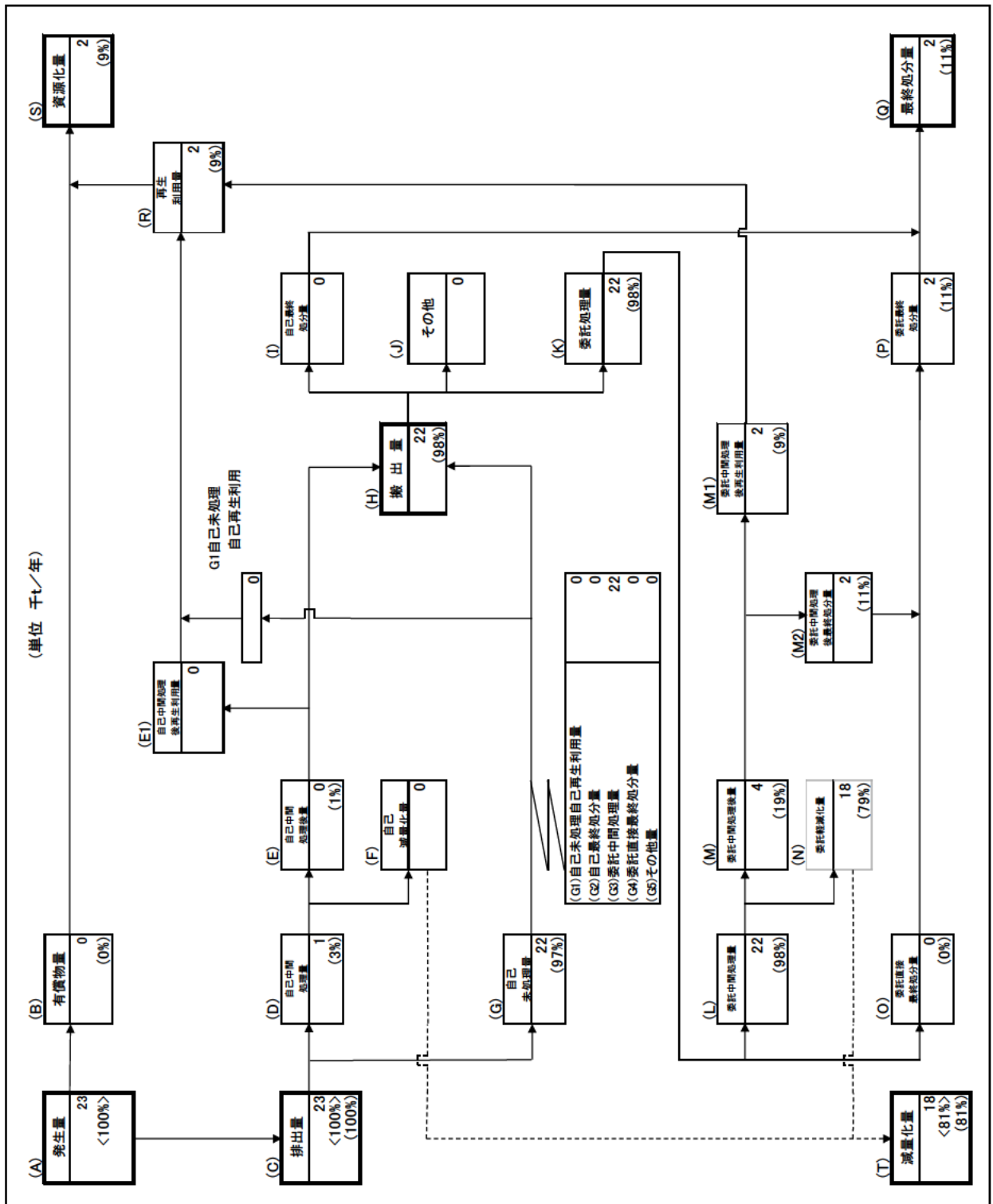


図 2-4-21 医療業からの排出及び処理状況